

石川工業高等専門学校	環境建設工学専攻	開講年度	平成29年度(2017年度)
------------	----------	------	----------------

学科到達目標

こちらに掲載されている平成29年度のシラバスは、サンプルとなります。
提出等で必要な場合は、本校図書館に保管のシラバス又は下記URLを参照してください。

<https://syllabus.ishikawa-nct.ac.jp/>

【創造工学プログラムの学習・教育目標】

A. 科学技術や情報を利用してデザインし創造することに喜びを知り、たゆまず努力する技術者を育成する。

(1) 基礎工学（設計システム、情報論理、材料バイオ、力学、社会技術）の科目を修得している。

(2) PBL(Problem-based Learning)の経験から創造の喜びを修得している。

B. 問題を発見・提起し、修得した技術に関する知識や理論によって解析し、解決までできる技術者を育成する。

(1) 学士の学位を取得できる申請学士領域の工学の知識と能力を有する。

(2) 数学（情報処理）・物理による理論的解析能力がある。

C. 国際社会を多面的に考えられる教養と語学力を持ち、社会や自然環境に配慮できる技術者を育成する。

(1) 国際社会を多面的に考えることができる。

(2) 外国語によるコミュニケーション能力がある。

(3) 技術者倫理を修得している。

D. 実践的な体験をととして、地域の産業や社会が抱える課題に積極的に対処できる技術者を育成する。

(1) 地域企業などでのインターンシップをととして、実務上の問題点と解決法の現状を体得している。

(2) 実務上の問題点として、いろいろな環境技術について検討できる。

E. チームプロジェクト等を遂行するに必要な計画性をそなえ、論理的な記述・発表ができる技術者を育成する。

(1) 日本語による論理的な記述、コミュニケーションができる。

(2) 地道に行った研究成果を口頭発表できる。

(3) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめることができる。

F 1. 複合工学修得コースの学習・教育目標

いくつかの工学の知識を修得し、幅広い考察ができる技術者を育成する。

(1) 申請学士領域以外の工学の知識を修得し、幅広い考察ができる。

F 2. 専門工学探究コースの学習・教育目標

専門工学を探究し、深い考察ができる技術者を育成する。

(1) 申請学士領域の工学を探究し、深い考察ができる。

科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数								担当教員	履修上の区分
						専1年				専2年					
						前		後		前		後			
						1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
一般	必修	日本語表現	0016	学修単位	1	1								團野 光晴	
一般	必修	総合英語演習	0017	学修単位	1	1								香本 直子	
一般	必修	英語コミュニケーションⅠ	0018	学修単位	1	1								小林 隆	
専門	必修	インターンシップ	0019	学修単位	10	5		5						金寺 登 指導教員	
専門	必修	技術者倫理	0020	学修単位	2	2								鈴木 康文 西澤 辰男	
専門	必修	線形代数	0021	学修単位	2	2								河合 秀泰	
専門	必修	特別研究Ⅰ	0022	学修単位	4	2		2						金寺 登	
専門	必修	創造工学演習Ⅰ	0023	学修単位	3	1.5		1.5						高野 典礼 寺山 一輝 森原 崇	
専門	必修	建設材料学	0024	学修単位	2	2								福留 和人	

専門	必修	構造解析学	0025	学修単位	2	2								富田 充宏	
専門	必修	振動・波動工学	0026	学修単位	2	2								船戸 慶輔	
専門	必修	建築環境調整論	0027	学修単位	2	2								恩村 定幸	
専門	選択	流域水工学	0028	学修単位	2	2								鈴木 洋之	
専門	選択	住生活文化論	0029	学修単位	2	2								熊澤 栄二, 内田 伸一, 村田 一也	
専門	選択	建築・地域空間形成論	0030	学修単位	2	2								村田 一也	
一般	必修	英語コミュニケーション I I	0076	学修単位	1					1				小松 恭代	
一般	必修	健康科学	0078	学修単位	2					2				北田 耕司	
一般	必修	日本文化論	0177	学修単位	2					2				佐々木 香織	
専門	必修	環境技術	0082	学修単位	2					2				深見 哲男, 小村 良太郎, 高野 典礼	
専門	選択	離散数学	0084	学修単位	2					2				富山 正人	
専門	必修	特別研究 I I	0086	学修単位	8					4		4		金寺 登, 指導教員	
専門	必修	創造工学演習 I I	0087	学修単位	4							4		新保 泰輝, 恩村 定幸	
専門	選択	応用コンクリート工学	0088	学修単位	2					2				福留 和人, 高井 俊和, 富田 充宏	
専門	選択	交通基盤工学	0089	学修単位	2							2		西澤 辰男	
専門	選択	環境工学	0091	学修単位	2					2				高野 典礼	
専門	選択	建築構造計算学	0093	学修単位	2							2		北田 幸彦	
専門	選択	環境景観論	0094	学修単位	2					2				熊澤 栄二	
専門	選択	工業デザイン	0183	学修単位	2							2		山田 和紀	
専門	選択	量子力学	0185	学修単位	2					2				古崎 広志	
専門	選択	地盤材料工学	0190	学修単位	2							2		重松 宏明	
専門	選択	人間・環境デザイン論	0192	学修単位	2					2				道地 慶子	

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	日本語表現
科目基礎情報						
科目番号	0016		科目区分	一般 / 必修		
授業形態			単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	環境建設工学専攻		対象学年	専1		
開設期	前期		週時間数	1		
教科書/教材	『新編マスター日本語表現』（遠藤郁子他著・暁印書館）／『科学哲学への招待』（野家啓一著・筑摩書房）					
担当教員	團野 光晴					
到達目標						
1. 敬語、漢字、ことわざ、術語外来語を自在に使いこなすことができる。 2. 話し言葉と書き言葉を使い分けることができる。 3. 会話及び明確な文章で適切なコミュニケーションが取れる。 4. 文章の要約ができる。 5. 文章の構成法を踏まえた文章作成ができる。 6. 資料を分析し、文章化できる。 7. レジюмеに基づく口頭発表ができる。 8. 口頭発表聴講を踏まえて論理的な批評文を書ける。 9. 批評意識を持って読書することができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1 到達目標1・2・3	基本的な日本語の表記・会話の知識を習得し、自由に運用できる。		基本的な日本語の表記・会話の知識を習得し、理解できる。		基本的な日本語の表記・会話の知識を十分習得していない。	
評価項目2 到達目標4・5・6	文章や資料を分析し・要約・文章化した上で、自分なりの見解を論理立てて述べる事が出来る。		文章や資料を分析し・論理的に要約・文章化した上で、自分なりの感想を述べる事が出来る。		文章や資料の分析・論理的要約が十分に出来ず、的確な見解を述べられない。	
評価項目3 到達目標3・7・8・9	分析対象の文章を深く読み込み、レジюмеに的確に要約した上で、独創的な意見を論理的に述べ、それについて他者と創造的な討論が出来る。また他者の発表について適切かつ独創的な意見を述べる事が出来る。		分析対象の文章を理解し、レジюмеに要約した上で、自分なりの見解・感想を述べ、それについて他者と討論が出来る。また他者の発表について意見・感想を述べる事が出来る。		分析対象となる文章を読みこなせず、レジюмеによる要約に不十分などところがあり、かつ自分の見解を独創的な形で述べる事が出来ない。また他者の発表について意見・感想を述べる事が出来ない。	
学科の到達目標項目との関係						
創造工学プログラム E1						
教育方法等						
概要	日本語による文章力、対話・討議能力等、技術者として必要なコミュニケーション能力を身につけさせる。これにより、チームプロジェクト等を遂行するに必要な計画性を備え、論理的な記述・発表ができる技術者を養成することを目的とする。そのため、論理内容が明白な論説文等の技術文章や国際的日本人として必要な伝統的な文章等の理解の上に、対話の進め方、討議の進め方、文章の創作の実践によって総合的に日本語表現を実現する。					
授業の進め方・方法	【授業の進め方】前半は日本語表現ワークブックを用いた演習を踏まえ、インターンシップエントリーシートを作成する。後半は課題図書について読書報告をレジюмеにまとめ、これに基づく口頭発表と議論、更に発表聴講感想の作成を行う。また小テストを行い、漢字・敬語・表記等基本的な日本語表現に関する知識を習得する。 【評価方法・基準】成績評価の基準として60点以上を合格とする。上記の授業中取り組みについてそれぞれ評価した上、成果確認のため前期末試験を実施する。演習課題・口頭発表・レポート等（50%）、試験（筆記・小テスト）（50%）として評価する。					
注意点	文章表現・オーラルコミュニケーションに関する作法や知識をマスターできるよう心がけること。質問や発言などを特に積極的に行うこと。 課題に応じて、その都度レポート・文書等の作品を仕上げること。 毎時の授業における、演習、文章作成作業等を確実に行うこと。					
テスト						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス 話し言葉と書き言葉 明快な文章を書く（1）		話し言葉と書き言葉を区別し、意味の明解な文章を書くことが出来る。	
		2週	明快な文章を書く（2）		就職・被修飾語の対応などに気をつけ、意味の明解な文章を書くことが出来る。	
		3週	要約の力をつける（1）		課題文章について、要点を押さえて要約することが出来る。	
		4週	要約の力をつける（2）		比較的長い文章を、簡潔かつ的確に要約することが出来る。	
		5週	文章の構成法を学ぶ		三段論法、4段論法について理解し、論理的な読解と文章作成が出来る。	
		6週	資料を分析し、文章化する（1）		課題の文章を分析し、内容について評価して文章化することが出来る。	
		7週	資料を分析し、文章化する（2） 敬語表現		複数の文章を比較・分析し、批評を文章化して作成できる。	
		8週	口頭発表・レポート作成（1）		課題図書の指定箇所について分析・評価した結果をレジюмеにまとめ、これを用いて口頭発表し、議論できる。また他人の発表を聴講して意見を文章化できる。	
	2ndQ	9週	口頭発表・レポート作成（2）		課題図書の指定箇所について分析・評価した結果をレジюмеにまとめ、これを用いて口頭発表し、議論できる。また他人の発表を聴講して意見を文章化できる。	
		10週	口頭発表・レポート作成（3）		課題図書の指定箇所について分析・評価した結果をレジюмеにまとめ、これを用いて口頭発表し、議論できる。また他人の発表を聴講して意見を文章化できる。	

		11週	口頭発表・レポート作成（４）	課題図書の指定箇所について分析・評価した結果をレジュメにまとめ、これを用いて口頭発表し、議論できる。また他人の発表を聴講して意見を文章化できる。
		12週	口頭発表・レポート作成（５）	課題図書指定箇所について分析・評価した結果をレジュメにまとめ、これを用いて口頭発表し、議論できる。また他人の発表を聴講して意見を文章化できる。
		13週	口頭発表・レポート作成（６）	課題図書指定箇所について分析・評価した結果をレジュメにまとめ、これを用いて口頭発表し、議論できる。また他人の発表を聴講して意見を文章化できる。
		14週	口頭発表・レポート作成（７）	課題図書指定箇所について分析・評価した結果をレジュメにまとめ、これを用いて口頭発表し、議論できる。また他人の発表を聴講して意見を文章化できる。
		15週	前期末テスト	学習内容について、自宅学習を踏まえ設問に解答できる。
		16週	前期末テスト返却	採点結果と答え合わせを踏まえ、自己の問題点を発見し、解決できる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができる。	4	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	相手を理解した上で、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得ている。	4	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	25	0	0	10	15	100
基礎的能力	50	25	0	0	10	15	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	総合英語演習
科目基礎情報						
科目番号	0017		科目区分	一般 / 必修		
授業形態			単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	環境建設工学専攻		対象学年	専1		
開設期	前期		週時間数	1		
教科書/教材	Joseph Tabolt, 森永弘司著「Our Time, Our Lives, Our Movies: 映画で読むわたしたちの時代と社会」(金星堂) /TEX加藤著「TOEIC L & R TEST 出る単特急 金のフレーズ」(朝日新聞出版)					
担当教員	香本 直子					
到達目標						
1. 語句の使われ方に注意して英文を読むことができる。 2. 英文を読んで概要や主旨, 必要事項を理解できる。 3. 英文を聴いて概要や主旨, 必要事項を理解できる。 4. 本文に関する内容について英問英答できる。 5. 本文で使われているコロケーションを身につけることができる。 6. 本文の語彙や熟語を利用して英作文ができる。 7. 英語でアウトプットする際に正しい語句の選択ができる。 8. TOEIC目標スコアに必要な語彙を身につけることができる。 9. TOEIC目標スコアに必要な速度で英文を読むことができる。 10. TOEIC目標スコアに必要な速度で英文を聴くことができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標 項目1, 2, 5, 6, 7, 9	語句の使われ方に注意して、英文を読み進め、その内容を正確にとらえることができる。		語句の使われ方に注意して、英文を読み進め、その内容をおおよそ正確にとらえることができる。		英文を読んで、内容をとらえることができない。	
到達目標 項目3, 10	語句の使われ方に注意して、英文を聞き、その内容を正確にとらえることができる。		語句の使われ方に注意して、英文を聞き、その内容をおおよそ正確にとらえることができる。		英文を聞いて、内容をとらえることができない。	
到達目標 項目5, 6, 7, 8	英語理解・運用に必要な語彙を単語集を用いながら計画的に習得できる。		英語理解・運用に必要な語彙を単語集を用いながらおおよそ習得できる。		英語理解・運用に必要な語彙を単語集を用いながら計画的に習得できない。	
到達目標 項目4,5,6,7	英問英答ができる。		おおよその英問英答ができる。		英問英答ができない。	
学科の到達目標項目との関係						
創造工学プログラム C2						
教育方法等						
概要	英文法、語法、語彙を中心に語学力全般の学習を通して、英文読解、英文聴解における精度を増すと同時にアウトプットの強化を図り、総合的なコミュニケーション能力を高める。TOEIC試験も視野に入れ、読解速度や文法力・語彙力を向上させる取り組みを行う。自らとは異なるものの見方・考え方を学び、国際社会を複眼的視野をもって捉えることのできる教養を身につける。					
授業の進め方・方法	【事前事後学習など】指定するユニットに事前に目を通し、テキストの問題を各自解いておくこと。 自学自習教材としてリアリー・イングリッシュのEラーニング教材「Practical English 6: 50 Lessons for TOEIC - The Science」を活用すること。 【関連科目】英語コミュニケーションⅠ					
注意点	平常時の予習、復習が大切である。日ごろから英語にふれる習慣を身につけること。 基本英文法(文型、動詞、助動詞、態、関係詞、準動詞、比較、仮定法)を理解していることを前提として授業を行う。 理解が不十分な文法項目については、本科「英語表現ⅠおよびⅡ」で使用した参考書を用いて予め確認しておくこと。 7月に行う実力試験TOEIC IPの受験が必須である。 【評価方法・評価基準】成績の評価基準として60点以上を合格とする。 中間試験、前期末試験を実施する。 中間試験(25%)、前期末試験(25%)、小テストおよび課題(25%)、TOEIC IPまたは公開テスト(25%) TOEICに対応できる語彙力を高めるため、教材「TOEIC L & R TEST 出る単特急 金のフレーズ」について課題を課し、確認のための小テストを行う。					
テスト						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	導入, E-learning		授業の進め方が理解できる。 E-learningを自分で進めることができる。	
		2週	Unit1 More of an "Experience" than a Show (Star Wars)		英語理解・運用に必要な語彙を単語集を用いながら計画的に習得できる。英文を読んだり聞いたりして、その内容をとらえることができる。	
		3週	Unit2 A Contemporary Fairy Tale (Frozen)		英語理解・運用に必要な語彙を単語集を用いながら計画的に習得できる。英文を読んだり聞いたりして、その内容をとらえることができる。	
		4週	Unit3 The Timeless World of "Make-believe" (Toy Story)		英語理解・運用に必要な語彙を単語集を用いながら計画的に習得できる。英文を読んだり聞いたりして、その内容をとらえることができる。	
		5週	Unit4 A Masterful Blend of Reality and Fantasy (H. Potter)		英語理解・運用に必要な語彙を単語集を用いながら計画的に習得できる。英文を読んだり聞いたりして、その内容をとらえることができる。	
		6週	Unit5 Surpassing the Imagination (The Lord of the Rings)		英語理解・運用に必要な語彙を単語集を用いながら計画的に習得できる。英文を読んだり聞いたりして、その内容をとらえることができる。	
		7週	Unit6 The Class-Defying Love Story (Titanic)		英語理解・運用に必要な語彙を単語集を用いながら計画的に習得できる。英文を読んだり聞いたりして、その内容をとらえることができる。	

2ndQ	8週	まとめと復習	
	9週	Unit7 Searching for a Place in the World (Stand by Me)	英語理解・運用に必要な語彙を単語集を用いながら計画的に習得できる。英文を読んだり聞いたりして、その内容をとらえることができる。
	10週	Unit8 A Pirate with a Free Soul (Pirates of the Caribbean)	英語理解・運用に必要な語彙を単語集を用いながら計画的に習得できる。英文を読んだり聞いたりして、その内容をとらえることができる。
	11週	Unit9 A Strange Friend from Outer Space (E.T.)	英語理解・運用に必要な語彙を単語集を用いながら計画的に習得できる。英文を読んだり聞いたりして、その内容をとらえることができる。
	12週	Unit10 Go Back in Time! (Back to the Future)	英語理解・運用に必要な語彙を単語集を用いながら計画的に習得できる。英文を読んだり聞いたりして、その内容をとらえることができる。
	13週	Unit11 Life Is Chance: An Individual in History (F. Gump)	英語理解・運用に必要な語彙を単語集を用いながら計画的に習得できる。英文を読んだり聞いたりして、その内容をとらえることができる。
	14週	Unit12 The Birth of a New Type of an Action Hero (Die Hard)	英語理解・運用に必要な語彙を単語集を用いながら計画的に習得できる。英文を読んだり聞いたりして、その内容をとらえることができる。
	15週	前期復習	
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	定期試験	課題，小テスト	実力試験	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	50	25	25	0	0	0	100	
基礎的能力	50	25	25	0	0	0	100	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	英語コミュニケーションⅠ	
科目基礎情報							
科目番号	0018		科目区分	一般 / 必修			
授業形態			単位の種別と単位数	学修単位: 1			
開設学科	環境建設工学専攻		対象学年	専1			
開設期	前期		週時間数	1			
教科書/教材	松尾秀樹・Stephen Edward Rife・藤本温(編)「リーディング・レイディアス：科学技術の多様な側面を考える」(三修社)						
担当教員	小林 隆						
到達目標							
1.科学的な内容についての英文の概要を理解することができる。 2.科学的な内容について、事前に準備すれば、自分の意見を英語で表現することができる。 3.英語の発話のメカニズムを理解し、聞き手の意図を読みながら英語で口頭で簡単なやりとりができる。 4.TOEIC目標スコアに相当するリスニング・リーディングの技術を身に着ける。 5.事前に準備すれば、簡単な英語プレゼンテーションができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	.科学的な内容についての英文の概要を正しく理解することができる。		.科学的な内容についての英文の概要を概ね理解することができる。		.科学的な内容についての英文の概要を理解することができない。		
評価項目2	.科学的な内容について、事前に準備すれば、自分の意見を正しく英語で表現することができる。		.科学的な内容について、事前に準備すれば、自分の意見を概ね英語で表現することができる。		.科学的な内容について、事前に準備しても、自分の意見を英語で表現することができない。		
評価項目3	英語の発話のメカニズムを理解し、聞き手の意図を読みながら適切に英語で口頭で簡単なやりとりができる。		英語の発話のメカニズムを理解し、聞き手の意図を読みながら英語で口頭で簡単なやりとりが概ねできる。		英語の発話のメカニズムを理解し、聞き手の意図を読みながら英語で口頭で簡単なやりとりができない。		
評価項目4	TOEIC目標スコアに相当するリスニング・リーディングの優れた技術を身につけている。		TOEIC目標スコアに相当するリスニング・リーディングの技術を概ね身につけている。		TOEIC目標スコアに相当するリスニング・リーディングの技術を身につけていない。		
評価項目5	事前に準備すれば、適切な表現を用いて簡単な英語プレゼンテーションができる。		事前に準備すれば、なんとか簡単な英語プレゼンテーションができる。		事前に準備しても、簡単な英語プレゼンテーションができない。		
学科の到達目標項目との関係							
創造工学プログラム C2							
教育方法等							
概要	英語の総合的語学力を持ち、国際社会を多面的に考え、社会や環境に配慮できる技術者育成を目標とする。TOEICリスニングや英語プレゼンテーション指導を通して、英語による発表技術の向上を図る。また、発話解釈の仕組みの学習を通してコミュニケーション力の向上を図る。						
授業の進め方・方法	【授業の進め方・事前事後学習】 随時理解を深めるための課題を与える。 【関連科目】 英語コミュニケーションⅠⅠ、総合英語演習						
注意点	授業の一環として毎時間リスニングを実施する。 平常授業において英語による自己表現への努力が大事である。 口頭発表において積極的な取り組みが求められる。 基本英文法(文型、動詞、助動詞、態、関係詞、準動詞、比較、仮定法)を理解していることを前提として授業を行う。 理解が不十分な文法項目については、本科「英語表現ⅠおよびⅡ」で使用した参考書を用いて予め確認しておくこと。 【評価方法・評価基準】 期末試験を実施する。成績の評価基準として60点以上を合格とする。 期末試験(50%)、随時行う小試験および課題(30%)、口頭発表(20%)						
テスト							
授業計画							
前期	1stQ	週	授業内容			週ごとの到達目標	
		1週	導入、コミュニケーションと発話解釈について			コミュニケーションと発話解釈の仕組みが分かり、関連する設問に答えることができる。	
		2週	Unit1 Elegant Demollition, Listening 1			テキストの内容が分かり、関連する設問に答えることができる。	
		3週	Unit3 Japanese Rocket Science, Listening 2			テキストの内容が分かり、関連する設問に答えることができる。	
		4週	Unit4 Drones, Listening 3			テキストの内容が分かり、関連する設問に答えることができる。	
		5週	Unit5 Whistleblower Engineer Fights Giant Monsters and Wins!, Listening 4			テキストの内容が分かり、関連する設問に答えることができる。	
		6週	Unit6 AI , Listening 5			テキストの内容が分かり、関連する設問に答えることができる。	
		7週	Unit7 Mitsubishi Regional Jet, Listening 6			テキストの内容が分かり、関連する設問に答えることができる。	
	2ndQ	8週	Unit8 Johannis de Rijke, Listening 7			テキストの内容が分かり、関連する設問に答えることができる。	
		9週	Unit9 Child Proof Technology, Listening 8			テキストの内容が分かり、関連する設問に答えることができる。	
		10週	Unit10 A Breach of the Public Trust, Listening 9			テキストの内容が分かり、関連する設問に答えることができる。	

		11週	Unit11 Scientific Accountability, Listening 10	テキストの内容が分かり、関連する設問に答えることができる。
		12週	Unit14 The Corporate Culture of Concealment, Listening 11	テキストの内容が分かり、関連する設問に答えることができる。
		13週	発表準備	プレゼンテーションのスライドと原稿を準備し、発表の練習ができる。
		14週	発表活動 1	英語でプレゼンテーションができる。
		15週	発表活動 2	英語でプレゼンテーションができる。
		16週	前期期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	課題	発表				合計	
総合評価割合	50	30	20	0	0	0	100	
基礎・応用能力	50	30	20	0	0	0	100	
	0	0	0	0	0	0	0	
	0	0	0	0	0	0	0	

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	インターンシップ
科目基礎情報						
科目番号	0019		科目区分	専門 / 必修		
授業形態			単位の種別と単位数	学修単位: 10		
開設学科	環境建設工学専攻		対象学年	専1		
開設期	通年		週時間数	5		
教科書/教材	インターンシップガイダンス資料					
担当教員	金寺 登,指導 教員					
到達目標						
1. インターンシップを通して、自分の専門分野に関する知識を再確認する。 2. 自分の知識、能力を高める。 3. 仕事の進め方、人との接し方を学び社会のルールを身につける。 4. 人間としての成長を図ると共に自らが目指す技術者像を明確なものにする。 5. 課題を発掘して解決する手法を身につける。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標 項目 1, 2, 4	自分の専門分野に関する知識を再確認し、主体的に自分の知識、能力を高め、自らが目指す技術者像を明確にできた。		自分の専門分野に関する知識を再確認し、自分の知識、能力を高め、自らが目指す技術者像を明確するよう努力した。		自分の専門分野に関する知識を再確認し、自分の知識、能力を高め、自らが目指す技術者像を明確にすることができなかった。	
到達目標 項目 3	仕事の進め方、人との接し方を学び社会のルールを身につけることができた。		仕事の進め方、人との接し方を学び社会のルールを身につけるよう努力した。		仕事の進め方、人との接し方を学び社会のルールを身につけることができなかった。	
到達目標 項目 5	課題を発掘して解決する手法を身につけることができた。		課題を発掘して解決する手法を身につけるよう努力した。		課題を発掘して解決する手法を身につけることができなかった。	
学科の到達目標項目との関係						
創造工学プログラム D1						
教育方法等						
概要	企業等において3ヶ月にわたる長期のインターンシップを行い、現実の課題に取り組む訓練を積むことによって高専で身につけた基礎学力と専門知識を高めるとともに、これまで学んだことを生かしつつ更に発展させ、課題を把握し解決する能力を身につける。また、地域社会に対処するためにも地域企業が抱える課題や社会的課題に対処できる能力を身につけ、自己の感性及び創造性を養うことを目的とする。					
授業の進め方・方法	【事前事後学習など】終了後インターンシップ報告書を作成し提出すること。					
注意点	各受入企業等が定めたプログラムに沿って学生は仕事の目的・目標を意識して自主的、積極的にそれらを遂行することが重要である。 日々の実習内容は記録しておき、最終的にはその実習内容を報告書としてまとめ、提出する。 実習状況や問題点を受入企業に随時報告すること。 【評価方法・評価基準】成績の評価基準として60点以上を合格とする。 派遣企業等からの評価30%、巡回指導の評価10%、学生から提出される報告書の評価30%、プレゼンテーションの評価30%					
テスト						
授業計画						
		週	授業内容			週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	4月 インターンシップに関するガイダンス			
		2週	5月 各企業等へインターンシップ受入照会			
		3週				
		4週	7月、9月 長期インターンシップ事前教育			
		5週	①インターンシップ説明会(趣旨、目的、日程、等)			
		6週	②インターンシップ説明会(服装、態度、言動等について説明と指導)			
		7週	③企業講師による事前指導、集中講義			
		8週	④学生の実習希望の調整と取りまとめ			
	2ndQ	9週	⑤実習企業、日程等の決定、順次保険加入手続き			
		10週				
		11週				
		12週				
		13週				
		14週				
		15週				
		16週				
後期	3rdQ	1週	9月末～12月末 長期インターンシップ実施(3ヶ月間)			
		2週	①学生からの日誌・中間報告書の提出(1ヶ月ごとに)			
		3週	②教員の巡回指導実施(月1回程度)			
		4週				
		5週				
		6週				
		7週				
		8週	インターンシップ報告書作成、提出			

	4thQ	9週	インターンシップ発表会	
		10週	長期インターンシップ事後教育(課題抽出・解決)	
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	0	30	0	0	30	40	100	
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	30	0	0	30	40	100	

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	技術者倫理	
科目基礎情報							
科目番号	0020		科目区分		専門 / 必修		
授業形態			単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	環境建設工学専攻		対象学年		専1		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材							
担当教員	鈴木 康文,西澤 辰男						
到達目標							
到達目標1. 技術者倫理について, 科学技術, 法および倫理の観点から, その基本的な事項を理解する。 到達目標2. 技術者が社会や自然環境に対して負っている責任の重さを理解する。 到達目標3. 技術者の行為を多面的に考えられる視野と教養を持つ。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1: 到達目標1	技術者倫理について, 科学技術, 法および倫理の観点から, その基本的な事項を理解している。		技術者倫理について, 科学技術, 法および倫理の観点から, その基本的な事項を理解している。		技術者倫理について, 科学技術, 法および倫理の観点から, その基本的な事項を理解していない。		
評価項目2: 到達目標1	技術者が社会や自然環境に対して負っている責任の重さを理解している。		技術者が社会や自然環境に対して負っている責任の重さを理解している。		技術者が社会や自然環境に対して負っている責任の重さを理解していない。		
評価項目3: 到達目標1	技術者の行為を多面的に考えられる視野と教養を持っている。		技術者の行為を多面的に考えられる視野と教養を持っている。		技術者の行為を多面的に考えられる視野と教養を持っていない。		
学科の到達目標項目との関係							
創造工学プログラム C3 創造工学プログラム D2							
教育方法等							
概要	技術者倫理について, 科学技術, 法および倫理の観点から, その基本的な事項を理解し, それを実践する技術者を目指す。また, 技術者が社会や自然環境に対して負っている責任の重さを理解し, 技術者の行為を多面的に考えられる視野と教養を養う。						
授業の進め方・方法	中間試験および期末試験を実施する。 事例に関するレポートを課す。 試験 (40%), レポート評価 (60%) 成績の評価基準として60点以上を合格とする。						
注意点	日常から社会的なさまざまな問題に関心をもつことが大切です。 論理的な文章を書く訓練をしてください。 技術士の方に身近な技術者倫理に関する事例を報告してもらう予定です。 2年次開講の環境技術では関連するレポート課題が出されるので, あわせて総合的に評価します。 履修の先修条件: 履修可能なすべての基盤学科から接続を配慮して, 必要な基礎知識をその都度説明します。						
テスト							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	倫理概論		到達目標1		
		2週	技術 (者) 倫理とは		到達目標1,2		
		3週	地域への責任 (福島原発問題)		到達目標3		
		4週	消費者・使用者への責任 (製造物責任)		到達目標1~3		
		5週	倫理的ジレンマ		到達目標1~3		
		6週	技術士による技術者倫理の事例報告 (1)		到達目標1~3		
		7週	技術士による技術者倫理の事例報告 (2)		到達目標1~3		
		8週	技術士による技術者倫理の事例報告 (3)		到達目標1~3		
	2ndQ	9週	技術士による技術者倫理の事例報告 (4)		到達目標1~3		
		10週	技術士による技術者倫理の事例報告 (5)		到達目標1~3		
		11週	技術士による技術者倫理の事例報告 (6)		到達目標1~3		
		12週	技術士による技術者倫理の事例報告 (7)		到達目標1~3		
		13週	技術士による技術者倫理の事例報告 (8)		到達目標1~3		
		14週	技術士による技術者倫理の事例報告 (9)		到達目標1~3		
		15週	全体のまとめ		到達目標1~3		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	200	0	0	0	0	0	200
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	100	0	0	0	0	0	100

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	線形代数
科目基礎情報						
科目番号	0021		科目区分	専門 / 必修		
授業形態			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境建設工学専攻		対象学年	専1		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	押川元重「テキスト 線形代数」(サイエンス社)					
担当教員	河合 秀泰					
到達目標						
1. 1次独立・1次従属の定義を理解し, 説明できる。 2. 部分ベクトル空間の定義を理解し, 説明できる。 3. 部分ベクトル空間の次元を求めることができる。 4. 行列のランク(階数)を理解し, 求めることができる。 5. 線形写像を理解し, 説明できる。 6. 線形写像を用いて, 連立1次方程式の解を説明できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標項目1	1次独立・1次従属の定義を理解し, 具体例を説明できる。		1次独立・1次従属の定義を理解し, 説明できる。		1次独立・1次従属の定義の理解に困難が認められる。	
到達目標項目2	部分ベクトル空間の定義を理解し, 具体例を説明できる。		部分ベクトル空間の定義を理解し, 説明できる。		部分ベクトル空間の定義の理解に困難が認められる。	
到達目標項目3	様々な部分ベクトル空間の次元を求めることができる。		部分ベクトル空間の次元を求めることができる。		部分ベクトル空間の次元を求めることができない。	
到達目標項目4	行列のランク(階数)を求めて応用することができる。		行列のランク(階数)を理解し, 求めることができる。		行列のランク(階数)を求めることに困難が認められる。	
到達目標項目5	線形写像を理解し, 具体例を説明できる。		線形写像を理解し, 説明できる。		線形写像の理解に困難が認められる。	
到達目標項目6	線形写像を用いて, 連立1次方程式の解の構造を説明できる。		線形写像を用いて, 連立1次方程式の解を具体的に説明できる。		線形写像を用いて, 連立1次方程式の解を説明できない。	
学科の到達目標項目との関係						
創造工学プログラム B2						
教育方法等						
概要	本科の代数・幾何において線形変換を学習しているが, その線形変換を含む線形写像の概念を学ぶ。線形写像によって連立1次方程式を理論的に解析できることを目指し, そのための学習を通して, 論理的に問題を解決する能力を培う。					
授業の進め方・方法	【事前事後学習など】到達目標の達成度を確認するため, 適宜レポート課題を与える。 【関連科目】代数・幾何Ⅰ, 代数・幾何Ⅱ					
注意点	先修条件: ベクトル, 行列, 行列式, 線形変換について本科3年生までに学習する内容を理解し, 計算できること。 課題についてのレポートは必ず提出すること。 【評価方法・評価基準】成績の評価基準として60点以上を合格とする。 前期末試験を実施する。 定期試験(60%), 課題(40%)					
テスト						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ベクトルの1次独立系と1次従属系		1次独立・1次従属の定義を理解し, 説明できる。	
		2週	部分ベクトル空間		部分ベクトル空間の定義を理解し, 説明できる。	
		3週	部分ベクトル空間の次元		部分ベクトル空間の次元を求めることができる。	
		4週	部分ベクトル空間の共通部分と和		部分ベクトル空間の定義を理解し, 説明できる。	
		5週	行列のランク(1)		行列のランク(階数)を理解し, 求めることができる。	
		6週	行列のランク(2)		行列のランク(階数)を理解し, 求めることができる。	
		7週	線形写像		線形写像を理解し, 説明できる。	
		8週	線形写像の像と核(1)		線形写像を理解し, 説明できる。	
	2ndQ	9週	線形写像の像と核(2)		線形写像を理解し, 説明できる。	
		10週	連立1次方程式の解の存在		線形写像を用いて, 連立1次方程式の解を説明できる。	
		11週	連立1次方程式の解の一意性		線形写像を用いて, 連立1次方程式の解を説明できる。	
		12週	線形写像と部分ベクトル空間(1)		部分ベクトル空間の定義を理解し, 説明できる。線形写像を理解し, 説明できる。	
		13週	線形写像と部分ベクトル空間(2)		部分ベクトル空間の定義を理解し, 説明できる。線形写像を理解し, 説明できる。	
		14週	演習		線形写像を用いて, 連立1次方程式の解を説明できる。	
		15週	前期復習		部分ベクトル空間の次元を求めることができる。行列のランク(階数)を理解し, 求めることができる。	
		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	40	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	特別研究 I
科目基礎情報						
科目番号	0022		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	学修単位: 4		
開設学科	環境建設工学専攻		対象学年	専1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材						
担当教員	金寺 登					
到達目標						
1. 自主的・継続的に学習できる。 2. 計画的に研究を進め、まとめることができる。 3. 研究テーマの背景、目的を説明できる。 4. 関連する文献が調査できる。 5. 実験方法を検討し、実験装置や計算プログラムが組める。 6. 実験結果を分析し、現象を説明できる。 7. 研究成果を論文としてまとめることができる。 8. 研究成果を簡潔にまとめ、口頭発表できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標 項目 1, 2	自主的・継続的に学習し、計画的に研究を進め、まとめることができる。		助言を得ながら、自主的・継続的に学習し、計画的に研究を進め、まとめることができる。		自主的・継続的に学習し、計画的に研究を進め、まとめることができない。	
到達目標 項目 4, 5, 7	研究を実施し、研究成果を論文としてまとめることができる。		助言を得ながら、研究を実施し、研究成果を論文としてまとめることができる。		研究を実施し、研究成果を論文としてまとめることができない。	
到達目標 項目 3, 6, 8	研究成果を簡潔にまとめ、口頭発表でき質問にも適切に答えることができる。		研究成果を簡潔にまとめ、口頭発表できる。		研究成果を簡潔にまとめ、口頭発表できない。	
学科の到達目標項目との関係						
創造工学プログラム A1 創造工学プログラム A2						
教育方法等						
概要	電子機械工学専攻に関する総合的な創造的研究開発能力を育成するため、指導教員のもとで、文献調査、理論解析、実験、ディスカッションなどの能動的実践を行う。成果は中間報告書として提出され、校内の発表会等で審議される。このような体験を通じ、技術者として要求される計画性と発表能力を養う。					
授業の進め方・方法	【事前事後学習など】提出するレポートは定められたフォーマットに従って作成する。					
注意点	習得した知識に加え、研究遂行に必要な学力を備えるように努力する。 時間割上の特別研究の時間に左右されることなく、実際に特別研究を行った時間が研究時間となる。 各期の終了毎に研究時間が報告されるので、指導教員とのコンタクト時間毎に研究時間を報告すること。 【評価方法・評価基準】成績の評価基準として60点以上を合格とする。 後期に行われる発表会の発表状況および内容（30％）、さらに学年末に提出される報告書（70％）について評価する。					
テスト						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	特別研究テーマと指導教員の決定			
		2週	特別研究			
		3週	特別研究			
		4週	特別研究			
		5週	特別研究			
		6週	特別研究			
		7週	特別研究			
		8週	特別研究			
	2ndQ	9週	特別研究			
		10週	特別研究			
		11週	特別研究中間報告会(発表)			
		12週	特別研究			
		13週	特別研究			
		14週	特別研究			
		15週	特別研究			
		16週				
後期	3rdQ	1週				
		2週				
		3週				
		4週				
		5週				
		6週				
		7週				
		8週				
	4thQ	9週				

		10週		
		11週	特別研究	
		12週	特別研究	
		13週	特別研究	
		14週	特別研究中間報告書下書作成・添削	
		15週	特別研究中間報告書提出	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	0	30	0	0	70	0	100	
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0	
専門的能力	0	30	0	0	70	0	100	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	創造工学演習 I	
科目基礎情報							
科目番号	0023		科目区分		専門 / 必修		
授業形態			単位の種別と単位数		学修単位: 3		
開設学科	環境建設工学専攻		対象学年		専1		
開設期	通年		週時間数		1.5		
教科書/教材	適宜, 資料等のプリントを配布する。						
担当教員	高野 典礼,寺山 一輝,森原 崇						
到達目標							
1.与えられた課題を理解して, これまでに学んだ複数の分野の知識を統合し, 具体的な計画を立て, 課題解決に取り組む。 2.経済性・安全性・環境などに考慮する姿勢を養う。 3.課題の遂行に必要な複数の異なる分野の基礎力を身につける。 4.データを正確に解析し, 工学的に考察できる。 5.論旨を明確にしたレポートを作成できる。 6.コミュニケーションやチームワークなどグループで作業するための力を身に付ける。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	与えられた課題を理解して, これまでに学んだ複数の分野の知識を統合し, 具体的な計画を立て, 課題解決に取り組む。		与えられた課題を理解して, これまでに学んだ複数の分野の知識を統合し, 基本的な計画を立て, 課題解決に取り組む。		与えられた課題を理解して, これまでに学んだ複数の分野の知識を統合し, 具体的な計画を立て, 課題解決に取り組めない。		
評価項目2	経済性・安全性・環境などに考慮できる		基本的な経済性・安全性・環境などに考慮できる		経済性・安全性・環境などに考慮できない		
評価項目3	課題の遂行に必要な複数の異なる分野の基礎力を身につける。		課題の遂行に必要な複数の異なる分野の基礎力を少し身につける。		課題の遂行に必要な複数の異なる分野の基礎力を身につけていない。		
評価項目4	データを正確に解析し, 工学的に考察できる。		基本的なデータを正確に解析し, 工学的に考察できる。		データを正確に解析し, 工学的に考察できない。		
評価項目5	論旨を明確にしたレポートを作成できる。		論旨を明確にした基本的なレポートを作成できる。		論旨を明確にしたレポートを作成できない。		
評価項目6	コミュニケーションやチームワークなどグループで作業するための力を身に付ける。		コミュニケーションやチームワークなどグループで作業するための基本的な力を身に付ける。		コミュニケーションやチームワークなどグループで作業するための力を身に付けていない。		
学科の到達目標項目との関係							
創造工学プログラム E1 創造工学プログラム E2							
教育方法等							
概要	出前授業やPBLを通じて, これまでに学んだ工学の基礎的な知識・技術を駆使して実験を計画・遂行し, データを正確に解析し, 工学的に考察し, かつ説明・説得できる能力を養うことを目的とする。						
授業の進め方・方法	[事前事後学習] 1. 理解を深めるため, 毎回授業外学修時間に相当する課題を課す。 2. レポートは常に論旨を明確にするとともに簡潔明瞭にまとめ, 提出期限を厳守する。[関連科目] プログラミング, 計算力学, 水理学, 土質力学, 構造力学, 建築環境工学, 都市・交通計画, 国土・地域計画, 交通システム・都市施設デザイン						
注意点	前期は出前授業, 後期は出身学科が異なる学生で構成された融合チームを結成し, 設定されたチームプロジェクト型のテーマに対し, 計画を立て実行する。 (1)環境都市工学演習: 交通まちづくりに関するアンケート調査の企画・作成・実施およびその解析を通じて, 住民の利便性を確保するための課題設定力と問題解決力を養う。 (2)建築学演習: 鉄筋コンクリート構造物の耐震性能を主とした維持管理に関する基本方策の理解と各自の基本方策に対する問題定義と解決する能力を養[う。 評価方法・評価基準] 前期: 出前授業または成果物 2 0 %、レポート 8 0 % 後期: 成果物(レポート含む)の評価 1 0 0 % 最終的に、前期 5 0 %、後期 5 0 %の割合で評価する。 「成績の評価基準として 6 0 点以上を合格とする。」						
テスト							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス (課題・学習方法の説明)		与えられた課題を理解して, これまでに学んだ複数の分野の知識を統合し, 具体的な計画を立て, 課題解決に取り組む。		
		2週	演習(出前講座)		与えられた課題を理解して, これまでに学んだ複数の分野の知識を統合し, 具体的な計画を立て, 課題解決に取り組む。		
		3週	演習(出前講座)		コミュニケーションやチームワークなどグループで作業するための力を身に付ける。		
		4週	演習(出前講座)		コミュニケーションやチームワークなどグループで作業するための力を身に付ける。		
		5週	演習(出前講座)		コミュニケーションやチームワークなどグループで作業するための力を身に付ける。		
		6週	演習(出前講座)		コミュニケーションやチームワークなどグループで作業するための力を身に付ける。		
		7週	演習(出前講座)		コミュニケーションやチームワークなどグループで作業するための力を身に付ける。		
		8週	演習(出前講座)		コミュニケーションやチームワークなどグループで作業するための力を身に付ける。		

後期	2ndQ	9週	演習(出前講座)	コミュニケーションやチームワークなどグループで作業するための力を身に付ける。
		10週	演習(出前講座)	コミュニケーションやチームワークなどグループで作業するための力を身に付ける。
		11週	演習(環境再生医初級講座)	経済性・安全性・環境などに考慮する姿勢を養う。課題の遂行に必要な複数の異なる分野の基礎力を身に付ける。
		12週	演習(環境再生医初級講座)	経済性・安全性・環境などに考慮する姿勢を養う。課題の遂行に必要な複数の異なる分野の基礎力を身に付ける。
		13週	演習(環境再生医初級講座)	経済性・安全性・環境などに考慮する姿勢を養う。課題の遂行に必要な複数の異なる分野の基礎力を身に付ける。
		14週	レポート提出	データを正確に解析し、工学的に考察できる。論旨を明確にしたレポートを作成できる。
		15週	インターンシップ事前指導	与えられた課題を理解して、これまでに学んだ複数の分野の知識を統合し、具体的な計画を立て、課題解決に取り組む。
		16週		
	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週	ガイダンス（課題・学習方法の説明）	与えられた課題を理解して、これまでに学んだ複数の分野の知識を統合し、具体的な計画を立て、課題解決に取り組む。
		12週	演習（環境都市工学演習・建築学演習）	与えられた課題を理解して、これまでに学んだ複数の分野の知識を統合し、具体的な計画を立て、課題解決に取り組む。
		13週	演習（環境都市工学演習・建築学演習）	経済性・安全性・環境などに考慮する姿勢を養う。課題の遂行に必要な複数の異なる分野の基礎力を身に付ける。
		14週	演習（環境都市工学演習・建築学演習）	コミュニケーションやチームワークなどグループで作業するための力を身に付ける。課題の遂行に必要な複数の異なる分野の基礎力を身に付ける。
		15週	レポート提出	データを正確に解析し、工学的に考察できる。論旨を明確にしたレポートを作成できる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	0	10	0	0	90	0	100	
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0	
専門的能力	0	10	0	0	90	0	100	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	建設材料学	
科目基礎情報							
科目番号	0024		科目区分		専門 / 必修		
授業形態			単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	環境建設工学専攻		対象学年		専1		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	教材：適宜，プリントを配布する。						
担当教員	福岡 和人						
到達目標							
コンクリート用材料の性質を理解し、説明できる。 フレッシュコンクリートの性質を理解し、説明できる。 硬化コンクリートの性質を理解し、説明できる。 コンクリートの現状と問題点を理解し、説明できる。 コンクリートの高性能化の必要性について、理解できる。 各種高性能・新機能コンクリートについて、説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
到達目標項目1	コンクリート用材料の性質，フレッシュ及び硬化コンクリートの性質を理解し，説明できる。		コンクリート用材料の性質，フレッシュ及び硬化コンクリートの性質を理解し，基本を説明できる。		コンクリート用材料の性質，フレッシュ及び硬化コンクリートの性質を理解できず，基本を説明できない。		
到達目標項目2	コンクリートの現状と問題点を理解し，説明できる。		コンクリートの現状と問題点を理解し，基本を説明できる。		コンクリートの現状と問題点を理解できず，基本を説明できない。		
到達目標項目3	コンクリートの高性能化の必要性を理解し，各種高性能・新機能コンクリートについて説明できる。		コンクリートの高性能化の必要性を理解し，各種高性能・新機能コンクリートについて基本を説明できる。		コンクリートの高性能化の必要性を理解できず，各種高性能・新機能コンクリートについて説明できない。		
学科の到達目標項目との関係							
創造工学プログラム A1 創造工学プログラム B1専門(建築学) 創造工学プログラム B1専門(土木工学)							
教育方法等							
概要	まず、コンクリートに関する基礎・専門的知識の確実な定着を目指す。さらに、社会基盤整備に対する大きな状況変化によって生じたコンクリートを取り巻く多くの課題点を理解するとともに、コンクリートの建設材料としての主体的位置を保持し続けるために求められている高い付加価値をもつコンクリートの開発・使用について認識する。それらの問題解決のために、多くの技術者達によって示された創造性豊かで最後まで取り組む中から導き出された実践的な方法を学ぶ。						
授業の進め方・方法	【事前事後の学習など】 理解を深めるため、毎回授業外学修時間に相当する課題を課す。 【関連科目】 C科：コンクリート構造学，C科：コンクリート構造学Ⅰ，Ⅱ，A科：建築材料学，A科：鉄筋コンクリート構造，AC専攻：応用コンクリート工学						
注意点	1. コンクリートに関する材料学および構造学上の基本的事項について、復習しておくことが必要である。 2. 近年におけるインフラ整備に関連した報道や社会状況等に対して、常に注意および関心を持っていて欲しい。 【先修条件】 コンクリート工学に関する基本的事項（材料、施工など）について理解していること。コンクリート工学（2C）、コンクリート構造学Ⅰ（3C）、コンクリート構造学Ⅱ（4C）、建築材料Ⅰ（3A） 【評価方法・評価基準】 前期末試験（80%），レポート（20%）で評価する。 評価基準として、60点以上を合格とする。						
テスト							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	コンクリート工学の基礎（材料）		コンクリート用材料の性質を理解し、説明できる。		
		2週	コンクリート工学の基礎（フレッシュコンクリート）		フレッシュコンクリートの性質を理解し、説明できる。		
		3週	コンクリート工学の基礎（硬化コンクリート材料）		硬化コンクリートの性質を理解し、説明できる。		
		4週	コンクリート工学の基礎（コンクリートの現状と課題）		コンクリートの現状と問題点を理解し、説明できる。		
		5週	コンクリートの高性能・新機能化について		コンクリートの高性能化の必要性について、理解できる。		
		6週	高流動コンクリート(1)		高流動コンクリートについて、説明できる。		
		7週	高流動コンクリート(2)		高流動コンクリートについて、説明できる。		
		8週	高強度コンクリート（1）		高強度コンクリートについて、説明できる。		
	2ndQ	9週	高強度コンクリート（2）		高強度コンクリートについて、説明できる。		
		10週	軽量コンクリート		軽量コンクリートについて、説明できる。		
		11週	繊維補強コンクリート		繊維補強コンクリートについて、説明できる。		
		12週	高知能コンクリート		高知能コンクリートについて、説明できる。		
		13週	エココンクリート（1）		エココンクリートについて、説明できる。		
		14週	エココンクリート（2）		エココンクリートについて、説明できる。		
		15週	学習のまとめ				
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週	
評価割合							

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	100	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	構造解析学	
科目基礎情報							
科目番号	0025			科目区分	専門 / 必修		
授業形態				単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境建設工学専攻			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	教材：適宜，プリントを配布する。						
担当教員	富田 充宏						
到達目標							
1. 重みつき残差法の解析法が理解でき，説明できること。 2. 差分法の解析法が理解でき，説明できること。 3. 有限要素法の解析法が理解でき，説明できること。 4. マトリックス構造解析法の解析法が理解でき，説明できること。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
到達目標項目1	重みつき残差法の解析法が理解でき，説明できる。		重みつき残差法の解析法の基本が理解でき，基本を説明できる。		重みつき残差法の解析法が理解せず，説明できない。		
到達目標項目2	差分法の解析法が理解でき，説明できる。		差分法の解析法の基本が理解でき，基本を説明できる。		差分法の解析法が理解せず，説明できない。		
到達目標項目3	有限要素法の解析法が理解でき，説明できる。		有限要素法の解析法の基本が理解でき，基本を説明できる。		有限要素法の解析法が理解せず，説明できない。		
到達目標項目4	マトリックス構造解析法の解析法が理解でき，説明できる。		マトリックス構造解析法の解析法の基本が理解でき，基本を説明できる。		マトリックス構造解析法の解析法が理解せず，説明できない。		
学科の到達目標項目との関係							
創造工学プログラム B1専門(建築学) 創造工学プログラム B1専門(土木工学)							
教育方法等							
概要	構造解析法の中でも，連続体の代表的な解析法である領域法（残差法），一般近似法（差分法，有限要素法）およびマトリックス構造解析法について講義し，それぞれの解析法の基本的な理論を習得することにより，専門工学の知識と能力を身につけることを目標とする。						
授業の進め方・方法	【事前事後の学習など】毎回授業外学修時間に相当する予習，復習課題を与えるので必ず提出すること。 【関連科目】構造力学						
注意点	課題は，指定した期日までに提出のこと。 【先修条件】 はりの断面力，たわみの計算ができること。 解析学Ⅰ(2C, 2A)，構造力学Ⅰ(2C, 2A)，構造力学Ⅱ(3C, 3A) 【評価方法・評価基準】 前期末試験を実施する。 定期試験（70％），レポート（30％）として評価する。 評価基準として，60点以上を合格とする。						
テスト							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	概説				
		2週	重みつき残差法による解法（1）			重みつき残差法の解析法が理解でき，説明できる。	
		3週	重みつき残差法による解法（2）			重みつき残差法の解析法が理解でき，説明できる。	
		4週	差分法による解法			差分法の解析法が理解でき，説明できる。	
		5週	マトリックス構造解析法（1）			マトリックス構造解析法の解析法が理解でき，説明できる。	
		6週	マトリックス構造解析法（2）			マトリックス構造解析法の解析法が理解でき，説明できる。	
		7週	VBAによるマトリックス構造解析法のプログラミング（1）			マトリックス構造解析法の解析法が理解でき，説明できる。	
		8週	VBAによるマトリックス構造解析法のプログラミング（2）			マトリックス構造解析法の解析法が理解でき，説明できる。	
	2ndQ	9週	VBAによるマトリックス構造解析法のプログラミング（3）			マトリックス構造解析法の解析法が理解でき，説明できる。	
		10週	トラス部材の解析のまとめ			マトリックス構造解析法の解析法が理解でき，説明できる。	
		11週	有限要素法による解法			有限要素法の解析法が理解でき，説明できる。	
		12週	有限要素法の汎用ソフトについて			有限要素法の解析法が理解でき，説明できる。	
		13週	有限要素法の汎用ソフトによる課題演習（1）			有限要素法の解析法が理解でき，説明できる。	
		14週	有限要素法の汎用ソフトによる課題演習（2）			有限要素法の解析法が理解でき，説明できる。	
		15週	前学期の復習				
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100

基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
專門的能力	70	0	0	0	30	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	振動・波動工学	
科目基礎情報							
科目番号	0026			科目区分	専門 / 必修		
授業形態				単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境建設工学専攻			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	小坪清真「入門建設振動学」（森北出版）						
担当教員	船戸 慶輔						
到達目標							
1. 建設系の振動問題について説明できる。 2. 線形振動系について理解し、説明できる。 3. 地震動などの波動問題について理解し、説明できる。 4. スペクトル解析とその応用について説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
創造工学プログラム B1専門(建築学) 創造工学プログラム B1専門(土木工学)							
教育方法等							
概要	建設構造物において、地震時における安全性を確保することは非常に重要である。地震時における構造物の挙動などの振動問題を理解することは、建設系技術者に必要な基礎学力の1つである。本講義では、振動・波動問題について、実験や数値解析例などを通して、とくに線形系の振動問題について理論およびその利用について習得することを目的とする。						
授業の進め方・方法	定期試験を実施する。 定期試験（70％）、レポート（30％）として評価する。 成績の評価基準として60点以上を合格とする。 毎回授業外学修時間に相当する分量の予習・復習課題を与える。 実験結果の整理・解析などには相当の時間を要するので、レポートにはプロセスについての解説を必ず含めて提出すること。						
注意点	レポートは、指定した期日までに提出のこと。 履修の先修条件：物理における力学、振動に関する基本的物理関係、構造物の力学についての基礎的事柄について理解していること。 構造力学(C,A), 耐震工学(5C), 建築振動論(5A)						
テスト							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	概説：建設系の振動・波動問題				
		2週	1自由度線形振動系の理論				
		3週	1自由度線形振動系の解析I				
		4週	1自由度線形振動系の解析II				
		5週	多自由度線形振動系の理論				
		6週	多自由度線形振動系の解析I				
		7週	多自由度線形振動系の解析II				
		8週	多自由度線形振動系の解析III				
	2ndQ	9週	はりの曲げ振動				
		10週	地盤を伝わる波				
		11週	平面波に関する波動方程式I				
		12週	平面波に関する波動方程式II				
		13週	スペクトル解析				
		14週	地震応答スペクトルとその応用				
		15週	前学期の復習				
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	30	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	建築環境調整論
科目基礎情報						
科目番号	0027		科目区分	専門 / 必修		
授業形態			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境建設工学専攻		対象学年	専1		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	教材等： 必要に応じて適宜プリントを配布する。					
担当教員	恩村 定幸					
到達目標						
1. 様々な環境問題の現状を理解し，説明できる。 2. 現在，どのような対策がとられているかを理解し，説明できる。 3. 今後，どうすべきかを工学的に考察できる。 4. 問題の認識から解決策の提案までの過程を的確に整理，表現できる。 5. グループでの作業を効率よく行える。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標項目 1	様々な環境問題の現状を理解し，説明できる。		様々な環境問題の現状を理解できる。		様々な環境問題の現状を理解できない。	
到達目標項目 2	現在，どのような対策がとられているかを理解し，説明できる。		現在，どのような対策がとられているかを理解できる。		現在，どのような対策がとられているかを理解できない。	
到達目標項目 3	今後，どうすべきかを工学的に考察できる。		今後，どうすべきかを考察できる。		今後，どうすべきかを考察できない。	
到達目標項目 4	問題の認識から解決策の提案までの過程を的確に整理，表現できる。		問題の認識から解決策の提案までの過程を整理，表現できる。		問題の認識から解決策の提案までの過程を整理，表現できない。	
到達目標項目 5	グループでの作業を効率よく行える。		グループでの作業を行える。		グループでの作業を行えない。	
学科の到達目標項目との関係						
創造工学プログラム B1専門(建築学) 創造工学プログラム F1専門(土木工学)						
教育方法等						
概要	近年の外部環境の急激な変化によって，地球規模の環境から我々の生活レベルの環境に至るまで，様々な環境問題が生じている。それらの問題を正しく理解し，どのように調整して問題を解決するかを個人またはグループで考え，議論していく。本科では問題点を認識し，知識や技術を駆使して，解決策を見出す能力，および，そのプロセスを表現する能力を養う。					
授業の進め方・方法	「事前事後学習」理解を深めるため，毎回予習・復習課題を与える。 「関連科目」本科，専攻科すべての科目					
注意点	年間スケジュールを変更して，期間中に話題となった実際の環境問題を教材にすることもあるので，毎日のニュース等に注意すること。 「評価方法」 毎回の課題の内容と発表を評価する。成績評価が60点以上を合格とする。 課題内容（70%），発表（30%）					
テスト						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	講義ガイダンス			
		2週	地球規模の問題 地球温暖化について		問題を把握し，現状を理解し，新たな解決策を考察・提案できる。	
		3週	地球規模の問題 異常気象について		問題を把握し，現状を理解し，新たな解決策を考察・提案できる。	
		4週	地球規模の問題 オゾンホールについて		問題を把握し，現状を理解し，新たな解決策を考察・提案できる。	
		5週	地域の問題 各種公害問題①（騒音・振動問題）について		問題を把握し，現状を理解し，新たな解決策を考察・提案できる。	
		6週	地域の問題 各種公害問題②（大気汚染、水質汚濁、土壌汚染）について		問題を把握し，現状を理解し，新たな解決策を考察・提案できる。	
		7週	地域の問題 放射能汚染について		問題を把握し，現状を理解し，新たな解決策を考察・提案できる。	
		8週	都市の問題 ヒートアイランドについて		問題を把握し，現状を理解し，新たな解決策を考察・提案できる。	
	2ndQ	9週	都市の問題 酸性雨について		問題を把握し，現状を理解し，新たな解決策を考察・提案できる。	
		10週	都市の問題 室内環境と快適性について		問題を把握し，現状を理解し，新たな解決策を考察・提案できる。	
		11週	都市の問題 電磁障害について		問題を把握し，現状を理解し，新たな解決策を考察・提案できる。	
		12週	室内の問題 ビル風について		問題を把握し，現状を理解し，新たな解決策を考察・提案できる。	
		13週	その他 省エネルギー政策について		問題を把握し，現状を理解し，新たな解決策を考察・提案できる。	
		14週	課題発表		自らの考えを的確に整理し、相手に伝わるよう表現できる。	
		15週	前期復習			
		16週				

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	課題	合計
総合評価割合	0	30	0	0	0	70	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	30	0	0	0	70	100

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	流域水工学	
科目基礎情報							
科目番号	0028		科目区分		専門 / 選択		
授業形態			単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	環境建設工学専攻		対象学年		専1		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材							
担当教員	鈴木 洋之						
到達目標							
1. 流出現象のメカニズムや理論を理解できる。 2. 貯留関数法の意味を理解できる。 3. 貯留関数法による流出解析ができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
流出現象のメカニズムや理論を理解して応用できる。		流出現象のメカニズムや理論を理解して応用できる。		流出現象のメカニズムや理論を理解できる。		流出現象のメカニズムや理論を理解できない。	
貯留関数法を理解して実際に流出解析ができる。		貯留関数法を理解して実際に流出解析ができる。		貯留関数法を理解できる		貯留関数法を理解できない	
学科の到達目標項目との関係							
創造工学プログラム B1専門(土木工学) 創造工学プログラム F1専門 (建築学)							
教育方法等							
概要	河川管理において流域スケールの水収支の評価は重要な技術の一つである。本講義ではこの評価に欠かせない流出解析手法について説明する。本講義は最初に水循環を扱う水文学の概要と専門工学としての流出解析の意味を示す。また、流出解析法の一つである貯留関数法の物理的・数学的な理論を学ぶと共に実際の解析を行うことで流出現象を理解すると共に、実現場にて生じる流出問題の基本的な解決法を理解する。						
授業の進め方・方法	【事前事後学習】 理解を深めるため、毎回授業外学修時間に相当する課題を課す。 全講義内容を含む総合的なレポートを最終的に提出する。毎時間でやったことを実データにすぐに当てはめることが必要である。また、提出物は期日厳守で提出すること。 【関連科目】 水理学Ⅰ, 水理学Ⅱ, 水資源・エネルギー工学						
注意点	【評価方法・評価基準】 ・最終成績60点以上で合格とする ・前期末試験を実施する。 ・前期末試験 (60%)・課題(40%)						
テスト							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	水文学概論(1)			水文学の意義について理解し、近年の動向について理解できる	
		2週	水文学概論(1)			水文学の意義について理解し、近年の動向について理解できる	
		3週	洪水データの処理方法(1)			実際の洪水データを処理する方法を理解して計算できる	
		4週	洪水データの処理方法(1)			実際の洪水データを処理する方法を理解して計算できる	
		5週	流出現象と貯留関数法の概念(1)			各種貯留関数を用いた流出解析の理論を理解して応用し、実際に計算できる。	
		6週	流出現象と貯留関数法の概念(1)			各種貯留関数を用いた流出解析の理論を理解して応用し、実際に計算できる。	
		7週	貯留関数法の理論と流出解析法(1)			各種貯留関数を用いた流出解析の理論を理解して応用し、実際に計算できる。	
		8週	貯留関数法の理論と流出解析法(1)			各種貯留関数を用いた流出解析の理論を理解して応用し、実際に計算できる。	
	2ndQ	9週	貯留関数法の理論と流出解析法(1)			各種貯留関数を用いた流出解析の理論を理解して応用し、実際に計算できる。	
		10週	貯留関数法の理論と流出解析法(1)			各種貯留関数を用いた流出解析の理論を理解して応用し、実際に計算できる。	
		11週	貯留関数法の理論と流出解析法(1)			各種貯留関数を用いた流出解析の理論を理解して応用し、実際に計算できる。	
		12週	貯留関数法の理論と流出解析法(1)			各種貯留関数を用いた流出解析の理論を理解して応用し、実際に計算できる。	
		13週	貯留関数法の理論と流出解析法(1)			各種貯留関数を用いた流出解析の理論を理解して応用し、実際に計算できる。	
		14週	貯留関数法の理論と流出解析法(1)			各種貯留関数を用いた流出解析の理論を理解して応用し、実際に計算できる。	
		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							

	試験	発表	相互評価	態度	レポート	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	40	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	60	0	0	0	40	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	住生活文化論	
科目基礎情報							
科目番号	0029			科目区分	専門 / 選択		
授業形態				単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境建設工学専攻			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員	熊澤 栄二,内田 伸,村田 一也						
到達目標							
1.日本の居住形式を歴史的・文化的側面から理解し、説明できる。 2.日本の住宅・住環境を政治・経済的な視点から理解し、説明できる。 3.文化財保護について、その内容と現在の状況を理解し、説明できる。 4.風土の観点から諸外国と日本の住居形式の違いを理解し、説明できる。 5.日本における戦後の家族のあり方の変化から、住宅革新について理解し、説明 できる。 6.建築家による戦後の住宅提案を理解し、説明できる。 7.これからの住空間の可能性について、現状を踏まえて理解し、説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1 項目 1、 3、 7	日本の住居形式について理解し、その価値について説明できる。			日本の住居形式について理解できる。		日本の住居形式を知っている。	
評価項目2 項目 2、 5、 7	戦後日本における住環境の歴史とインフラ整備の関係性を説明できる。			戦後日本における住環境の歴史とインフラ整備を説明できる。		戦後日本における住環境の歴史とインフラ整備を説明できない。	
評価項目3 項目 4、 6、 7	風土性踏まえて、日本独自の「家」の在り方について説明し、戦後の住宅提案について独自の観点から考察・説明ができる。			風土性踏まえて、日本独自の「家」の在り方について全般的に説明ができ、戦後の住宅提案について少なくともその特徴を説明できる。		風土性踏まえて、日本独自の「家」の在り方や、戦後の住宅提案について説明できない。	
学科の到達目標項目との関係							
創造工学プログラム B1専門(建築学) 創造工学プログラム B1専門(土木工学)							
教育方法等							
概要	住生活をとりまく諸相について文化的視点から解説し、その多元論的理解を深めることにより、専門技術に関する知識を身につけると同時に、住生活を取り巻く状況の理解から、新しい時代の技術戦略を立てる際に有効な幅広い考察能力を養うことをめざす。						
授業の進め方・方法	3名の教員が、各4回＋アルファの講義等を通じて多角的に日本の住生活を学ぶ。 事前事後学習など：住生活文化に関する発展的学習のために、小課題を出題する。 関連科目：地域・都市計画，建築計画学Ⅰ，国土・地域計画，建築・都市デザイン						
注意点	配布するプリントを参照しながら、必要事項を記入し、講義内容の理解に取り組む。 授業で使用する視聴覚教材の内容については、自主的にメモをとり要点を把握する。 新聞・雑誌・ニュース等で見られる関連情報に関心をもつ。 知識だけにとどまらず、自分の意見等に発展させるよう努める。 評価方法・評価基準：授業担当各教員より小論文課題もしくは定期試験を実施する。 発表課題や取り組み姿勢についても評価する。 各教員の評価を合計し、最終成績とする。 成績の評価基準として60点以上を合格とする。						
テスト							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス				
		2週	日本における住居の歴史的発展と住文化 1				
		3週	日本における住居の歴史的発展と住文化 2				
		4週	日本における住居の歴史的発展と住文化3				
		5週	日本における住居の歴史的発展と住文化4			日本の居住形式を歴史的・文化的側面から理解し、説明できる。	
		6週	日本における住居の歴史的発展と住文化5			風土の観点から諸外国と日本の住居形式の違いを理解し、説明できる。	
		7週	日本における住居の歴史的発展と住文化6			風土の観点から諸外国と日本の住居形式の違いを理解し、説明できる。	
		8週	日本における住居の歴史的発展と住文化7			建築家による戦後の住宅提案を理解し、説明できる。	
	2ndQ	9週	日本における住居の歴史的発展と住文化8				
		10週	日本における住居の歴史的発展と住文化9				
		11週	日本における住居の歴史的発展と住文化10				
		12週	日本における住居の歴史的発展と住文化11				
		13週	日本における住居の歴史的発展と住文化12				
		14週	まとめ				
		15週	復習				
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	小論文レポート	その他	合計

総合評価割合	0	0	0	0	30	0	30
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	15	0	15
分野横断的能力	0	0	0	0	15	0	15

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	建築・地域空間形成論	
科目基礎情報							
科目番号	0030		科目区分		専門 / 選択		
授業形態			単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	環境建設工学専攻		対象学年		専1		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	適宜プリントを配布する。						
担当教員	村田 一也						
到達目標							
1. 近代という時代構造を理解し、説明できる。 2. 機械論的世界を認識し、説明できる。 3. 認識することと制作することとの相関が理解できる。 4. 都市理論の系譜について説明できる。 5. 建築理論の系譜について説明できる。 6. 様式理論の系譜について説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
到達目標 項目1, 2, 3	近代的世界認識について理解し、説明できる。		近代的世界認識について理解している。		近代的世界認識を知っている。		
到達目標 項目4, 5	建築・都市理論の系譜について、理解し、説明できる。		建築・都市理論の系譜について理解している。		建築・都市理論の系譜について知っている。		
到達目標 項目6	様式理論の系譜について、理解し、説明できる。		様式理論の系譜について、理解している。		様式理論の系譜について知っている。		
学科の到達目標項目との関係							
創造工学プログラム B1専門(建築学) 創造工学プログラム F1専門(土木工学)							
教育方法等							
概要	近代から現代に至る建築や都市の形成および理論の系譜を辿り、そこから現代的な建築・都市に纏わる諸問題への解答を得ようとする。建築・都市理論の構築とその背景としてある人間の文化的・社会的・思想的行為との関連性から現在の建築的・都市的状況を把握し今後の在り方を探る手がかりを得ようとする。						
授業の進め方・方法	学習した内容の確認、自主的な研究を評価するために、レポートを出題する。 地域・都市計画、西洋建築史、近代建築史、建築デザイン論						
注意点	単に知識のみの習得ではなく、計画者の立場に立って考えながら学ぶことが大切です。 新聞・雑誌・ニュース等で見られる関連情報に関心を持ち、自分なりの問題意識を持つことが大切です。 配布するプリントをよく読み、十分理解すること。 成績の評価基準として60点以上を合格とする。 中間試験および期末試験を実施する。 定期試験（80%）、レポート（20%）						
テスト							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	機械論の系譜 1 近代建築理論の状況		機械論の古代から近代への移行について理解している。		
		2週	機械論の系譜 2 近代建築理論の状況		機械論の古代から近代への移行について理解している。		
		3週	身近な機械論 機械論と建築理論		認識と政策について理解している。		
		4週	機械論的世界像に基づく社会と建築・都市 1		機械論的世界像について理解し、説明できる。		
		5週	機械論的世界像に基づく社会と建築・都市 2		機械論的世界像について理解し、説明できる。		
		6週	機械論的世界像に基づく社会と建築・都市 3		機械論的世界像について理解し、説明できる。		
		7週	近代の超克と現代の様相		近代理論から現代的思潮への移行について理解できる。		
	2ndQ	8週	都市理論の系譜 1 都市と建築物		都市理論の系譜について理解できる。		
		9週	都市理論の系譜 2 都市と建築物		都市理論の系譜について理解できる。		
		10週	建築理論の系譜 1 建築とその理論		建築理論の系譜について理解できる。		
		11週	建築理論の系譜 2 建築空間とその理論		建築空間論の系譜について理解できる。		
		12週	様式理論の系譜 1 建築様式と建築理論		様式理論の系譜について理解できる。		
		13週	様式理論の系譜 2 建築様式と建築理論		様式理論の系譜について理解できる。		
		14週	様式理論の系譜 3 建築様式と建築理論		様式理論の系譜について理解できる。		
		15週	前期復習				
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	8 0	0	0	0	2 0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	英語コミュニケーションⅠⅡ	
科目基礎情報							
科目番号	0076		科目区分		一般 / 必修		
授業形態			単位の種別と単位数		学修単位: 1		
開設学科	環境建設工学専攻		対象学年		専2		
開設期	前期		週時間数		1		
教科書/教材	教科書：石井隆之他「All-POWERFUL STEPS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST」（成美堂） 教材等：自主作成プリント 参考書：多読多聴図書（図書館蔵）						
担当教員	小松 恭代						
到達目標							
1. TOEIC400点相当のリスニング・リーディングの技術を身につける。 2. 英語の発話のメカニズムを理解し、ある程度論理的意思疎通ができる。 3. 英文法のメカニズムを理解し、まとまった文章から情報を的確に読み取れる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1 到達目標 1	TOEIC IPで400点以上のスコアを獲得する		TOEIC IPで375点以上のスコアを獲得する		TOEIC IPで350点以下のスコアを獲得する		
評価項目2 到達目標 2	プレゼンテーションを英語で滑らかに行うことができる		プレゼンテーションを英語である程度滑らかに行うことができる		プレゼンテーションを英語で滑らかに行うことができない		
評価項目3 到達目標 3	400ワードぐらいの英文を辞書を用いずに8割以上理解することができる		400ワードぐらいの英文を辞書を用いずに6割以上理解することができる		400ワードぐらいの英文を辞書を用いずに5割以下しか理解することができない		
学科の到達目標項目との関係							
創造工学プログラム C2							
教育方法等							
概要	英語の総合的語学力を持ち、国際社会を多面的に考え、社会や環境に配慮できる技術者育成を目標とする。TOEICテストの問題形式を理解しながら、英語の音声の特徴や英文法の要点を修得することで基礎力を伸ばし、リスニングとリーディングの双方におけるコミュニケーション能力の向上を図る。授業の一環として実力試験（TOEIC IP）を実施する。						
授業の進め方・方法	【事前事後学習など】 TOEICスコアの向上には語彙力が欠かせない。単語テストを行うので、単語の習得に努めること。また、講義内容に応じた課題を与えるので必ず提出すること。 【関連科目】 英語コミュニケーションⅠ、総合英語演習						
注意点	【その他の履修上の注意事項や学習上の助言】 ・授業の一環として7月に実力試験TOEIC IPを行う。 ・平常授業において英語による自己表現への努力が大事である。 ・コミュニケーション力はプレゼンテーションによって評価する。 ・基本英文法（文型、動詞、時制、助動詞、態、関係詞、準動詞、比較、仮定法）を理解していることを前提として授業を行う。 【評価方法・評価基準】 成績の評価基準として60点以上を合格とする。 中間および期末試験を実施する。 中間試験（35％）、期末試験（35％）、課題・小テスト・プレゼンテーション（20％）、TOEIC（10％）						
テスト							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス Unit 1 Airport 品詞と文型				
		2週	Unit 2 Train Station 時制 1				
		3週	Unit 3 Department Store 時制 2				
		4週	Unit 4 Restaurant 助動詞				
		5週	Unit 5 Hotel 助動詞				
		6週	Unit 6 Hospital 不定詞				
		7週	まとめと復習				
		8週	Unit 7 Bank 分詞				
	2ndQ	9週	Unit 8 Workplace 分詞				
		10週	Unit 9 Fitness Club 接続詞				
		11週	Unit 10 Sightseeing 関係詞				
		12週	Unit 11 International Conference 関係詞				
		13週	Unit 12 Computer Society 代名詞 Presentation				
		14週	まとめと復習 Presentation				
		15週	前期復習				
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	健康科学
科目基礎情報						
科目番号	0078		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境建設工学専攻		対象学年	専2		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	石川県大学健康教育研究会編著「現代人のための健康づくり」（北國新聞社）					
担当教員	北田 耕司					
到達目標						
1. 健康的なライフスタイルについて理解し，説明できる。 2. 生活習慣と疾病の関係について理解し，説明できる。 3. 健康と食事の関係について理解し，説明できる。 4. エネルギー供給系について理解し，説明できる。 5. エネルギー消費量について理解し，説明できる。 6. 健康づくりのための身体活動基準について説明できる。 7. 健康づくりのための運動を理解し，実践できる。 8. 身体運動と心の関係について理解し，説明できる。 9. 身体動作における軸の重要性について理解し，説明できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	生活習慣と健康について理解し、健康的な生活について説明・実践できる。		生活習慣と健康について理解し、健康的な生活について説明できる。		健康に対する関心がない。	
評価項目2						
評価項目3						
学科の到達目標項目との関係						
創造工学プログラム B1専門(建築学) 創造工学プログラム F1専門(土木工学)						
教育方法等						
概要	より良い生活を実践していく基礎学力および国際社会を多面的に捉える教養を身につける。現代社会における「健康」を脅かす問題について把握し，豊かで健康的な生活を営むためのライフスタイルについて学習する。特に生活習慣，高齢化，環境，国際交流の活発化に伴う健康のあり方について考える。また，身体機能を理解し，健康の維持・増進が実践できる能力を身につける。					
授業の進め方・方法	基本的に講義形式の授業を行う。また，実験や測定，演習などを通して心身の健康についての理解を深めることがある。 【事前事後学習など】授業外学習時間を利用して事前・事後学習を行なうこと。授業外学習および実験・測定の内容についてはレポートの提出を求める。 【関連科目】保健体育Ⅳ，保健体育Ⅴ					
注意点	身体を動かし、身体機能を測定することがあります。 前期末試験を実施する。 前期末試験（70％），レポート（30％） 成績の評価基準として60点以上を合格とする。					
テスト						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	健康とは何か・嗜好品と健康		健康の定義を理解し説明できる。飲酒・喫煙が健康に及ぼす影響について説明できる。	
		2週	健康に関連した体力		体力の構造について理解し、健康の測定法について説明できる。	
		3週	防衛体力		防衛体力について理解し、測定項目の意味について説明できる。	
		4週	生活習慣病		現代における代表的な生活習慣病について説明できる。	
		5週	健康と栄養		栄養学の基礎知識を理解し、最近の栄養学の知見の変化を理解できる。	
		6週	エネルギー供給系概要		身体活動のエネルギー供給過程について説明できる。	
		7週	ATP-CP系，乳酸系		実験・測定のデータからATP-CP系、乳酸系の特徴について説明できる。	
		8週	有酸素系		実験・測定のデータから有酸素系の特徴について説明できる。	
	2ndQ	9週	エネルギー消費量		身体活動によるエネルギー消費の計算について理解できる。	
		10週	健康づくりのための身体活動基準		国民の健康を維持・増進させるための国家の政策について理解し、説明できる。	
		11週	健康づくり運動の実際		人間の身体活動のメカニズムを理解し、自分の体力レベル（最大酸素摂取量）を知る。	
		12週	健康に適した運動強度		様々な運動強度を実践し、「適度な運動強度」とは何かを説明できる。	
		13週	スポーツと心		運動が心にもたらす影響について理解し、説明できる。	
		14週	身体動作における軸の重要性		人間の動きの個別性について理解し、説明できる。	
		15週	前期復習		健康科学授業全体について理解できる。	
		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		試験	レポート	合計	
総合評価割合		70	30	100	
基礎的能力		70	30	100	
専門的能力		0	0	0	
分野横断的能力		0	0	0	

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	日本文化論	
科目基礎情報							
科目番号		0177		科目区分		一般 / 必修	
授業形態				単位の種別と単位数		学修単位: 2	
開設学科		環境建設工学専攻		対象学年		専2	
開設期		前期		週時間数		2	
教科書/教材		毎時間プリントを配布する。随時、書籍を紹介する。					
担当教員		佐々木 香織					
到達目標							
1. 文化と文明の差異を説明できる。 2. 日本文化と異文化の差異について説明できる。 3. 歴史的史料をはじめとした史料調査を効率よく行うことができる。 4. 日本文化が異文化との接触によって形成してきたことを理解する。 5. 日本文化の特色について自分の考えを説明できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1 項目1,2,4		授業による定義付けに加え、さらに自ら調査した内容を付随して述べたり、授業内容とは異なる定義づけを自らの力で行い説明できる		使用語句の定義付けがされている		使用語句の定義付けがされていない	
評価項目2 項目3		自らの考えを裏付ける資料やデータが自らの論に必要なだけ端的にまとめられている		授業内で用いた資料を用いて自らの考えを裏付けている		授業内で用いた資料を含め、資料調査がなされていない	
評価項目3 項目5		日本文化の特色を自らの専門である工学研究に生かしたり、いかに日常の社会生活に関わっているかを考察したり、この課題を扱う問題考察の「必然性」が明確に言及されている		日本文化の特色を自らの専門である工学研究に生かしたり、いかに日常の社会生活に関わっているかを考察できる		日本文化について明確な考えがなく、論に必然性がない	
学科の到達目標項目との関係							
創造工学プログラム C1							
教育方法等							
概要		本授業では異文化社会から見た日本のあり方を再検討することで、国際社会を多面的に考え、より深く日本文化を理解させることを目標とする。また、本校の位置する加賀・能登で15世紀より盛んに行われてきた能楽を日本文化のひとつとして学ぶことで、地域社会への理解を深めることを併せて目標とする。					
授業の進め方・方法		毎回、書籍・文献を紹介し、講義冒頭にペーパー課題を課すので、授業外学習時間に予習しておくこと。また、関連書籍を読むことで復習を行い、さらに見識を広めること。					
注意点		本科で履修した日本文学、日本史、古典、哲学と科学の基礎知識を必要とする。 本科および専攻科一年までに履修・学修した外国語の基礎知識を必要とする。 到達目標の達成度を確認するため、授業内において史料調査を行ったり、ペーパーおよび口頭での発表を求めたりする場合がある。 【評価方法・評価基準】 提出された課題レポートによって評価する。(100%) 成績の評価基準として60点以上を合格とする。					
テスト							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	日本文化を検討するために		日本文化に関して自らの現状の知識・理解度を認識し、自分の意見を表現できる		
		2週	文化とは何か		語義・語源をたどる方法論を知る		
		3週	文明とは何か		語義・語源をたどる方法論について理解する		
		4週	文明と技術－西洋古代・中世の技術観－		現在の技術観の根幹となる思想の知識を得、それを理解できる		
		5週	現代技術の問題－生殖医療を例として－		現在の技術と倫理の相克の問題について知識を得、それを理解できる		
		6週	異文化理解とは何か－言語と文化の関わり－		異文化理解の方向性・注意点について理解する		
		7週	異文化を通じた自己理解－東日本大震災における各国の反応－		空間的異質性をもつ人々の反応から、自国文化の特性について理解する		
		8週	異文化を通じた自己理解－関東大震災における風説流布－		時間的異質性をもつ人々の反応から、自国文化の特性について理解する		
	2ndQ	9週	日本古来の宗教観－伊勢神宮の事例から－		日本の土着的宗教観についての知識を得、それを理解できる。		
		10週	仏教伝来による宗教観の変化		外来文化への反応についての知識を得、それを理解できる		
		11週	暦法の伝来とその二重性		外来文化への反応についての知識を得、それを理解できる		
		12週	文字の伝来とその変容		外来文化への反応についての知識を得、それを理解できる		
		13週	音楽・芸能の変遷		外来文化への反応についての知識を得、それを理解できる		
		14週	能楽の歴史		先行文化を融合して変遷していった日本芸能についての知識を得、それを理解できる		
		15週	世阿弥能楽論と現代		日本中世の思想の汎用性についての知識を得、それを理解できる		

		16週	前期復習およびレポート作成指導		複雑な事象の本質を構造化し、結論の推定をするために、必要な条件を加え、要約・整理した内容から多様な観点を示し、自分の意見や手順を論理的に展開する手法を理解できる。	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地歴	産業活動（農牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等）などの人間活動の歴史的発展過程または現在の地域的特性、産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解できる。	2	前1
				人間活動と自然環境との関わりや、産業の発展が自然環境に及ぼした影響について、地理的または歴史的観観点から理解できる。	2	前1
				社会や自然環境に調和した産業発展に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	2	前1
				日本を含む世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的または地理的観点から理解できる。	5	前1,前9
				国家間や国内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的または歴史的観点から理解できる。	5	前1
				文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。	5	前1
			公民	哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。	2	
				諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。	2	
				諸思想や諸宗教において、好ましい社会と人間のかかわり方についてどのように考えられてきたかを理解できる。	2	
				民主政治の基本的原理、日本国憲法の成り立ちやその特性について理解できる。	2	
				資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割について理解できる。	2	
				現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	2	
			地歴・公民	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。	4	
				社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。	4	
				今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。	2	
				環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。	2	
				国際平和・国際協力の推進、地球的諸課題の解決に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	2	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	相手の意見を聞き、自分の意見を伝えることで、円滑なコミュニケーションを図ることができる。	3	前1
				相手を理解した上で、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得ている。	3	前1
				集団において、集団の意見を聞き、自分の意見も述べ、目的のために合意形成ができる。	3	前1
				目的達成のために、考えられる提案の中からベターなものを選び合意形成の上で実現していくことができ、さらに、合意形成のための支援ができる。	3	前1
				ICTやICTツール、文書等を基礎的な情報収集や情報発信に活用できる。	3	
				ICTやICTツール、文書等を自らの専門分野において情報収集や情報発信に活用できる。	3	
				現状と目標を把握し、その乖離の中に課題を見つけ、課題の因果関係や優先度を理解し、そこから主要な原因を見出そうと努力し、解決行動の提案をしようとしている。	4	前1
				現状と目標を把握し、その乖離の中に課題を見つけ、課題の因果関係や優先度を理解し、発見した課題について主要な原因を見出し、論理的に解決策を立案し、具体的な実行策を絞り込むことができる。	4	前1
				事象の本質を要約・整理し、構造化（誰が見てもわかりやすく）できる。	4	前1
				複雑な事象の本質を整理し、構造化（誰が見てもわかりやすく）できる。結論の推定をするために、必要な条件を加え、要約・整理した内容から多様な観点を示し、自分の意見や手順を論理的に展開できる。	4	前1
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	身内の中で、周囲の状況を改善すべく、自身の能力を発揮できる。	4	前1
				集団の中で、自身の能力を発揮して、組織の勢いを向上できる。	4	前1
				日常生活の時間管理、健康管理、金銭管理などができる。常に良い状態を維持するための努力を怠らない。	4	前1
				ストレスやプレッシャーに対し、自分自身をよく知り、解決を試みる行動をとることができる。日常生活の管理ができるとともに、目標達成のために対処することができる。	4	前1
				学生であっても社会全体を構成している一員としての意識を持って、行動することができる。	4	前1

				市民として社会の一員であることを理解し、社会に大きなマイナス影響を及ぼす行為を戒める。人間性・教養、モラルなど、社会的・地球的観点から物事を考えることができる。	4	前1
				チームワークの必要性・ルール・マナーを理解し、自分の感情の抑制、コントロールをし、他者の意見を尊重し、適切なコミュニケーションを持つとともに、当事者意識を持ち協調して共同作業・研究をすすめることができる。	3	
				組織やチームの目標や役割を理解し、他者の意見を尊重しながら、適切なコミュニケーションを持つとともに、成果をあげるために役割を超えた行動をとるなど、柔軟性を持った行動をとることができる。	3	
				先にたって行動の模範を示すことができる。口頭などで説明し、他者に対し適切な協調行動を促し、共同作業・研究をすすめることができる。	3	
				目指すべき方向性を示し、先に立って行動の模範を示すことで他者に適切な協調行動を促し、共同作業・研究において、系統的に成果を生み出すことができる。リーダーシップを発揮するために、常に情報収集や相談を怠らず自身の判断力をも磨くことができる。	3	
				法令を理解し遵守する。基本的な人権について理解し、他者のおかれている状況を理解することができる。自分が関係している技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、技術者が社会に負っている責任を認識している。	4	前1
				法令を理解し遵守する。研究などで使用する、他者のおかれている状況を理解できる。自分が関係している技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、技術者が社会に負っている責任を認識し、身近で起こる関連した情報や見解の収集に努めるなど、技術の成果が社会に受け入れられるよう行動できる。	4	前1
				未来の多くの可能性から技術の発展と持続的社会の在り方を理解し、自らのキャリアを考えることができる。	3	
				技術の発展と持続的社会の在り方に関する知識を有し、未来社会を考察することができるとともに、技術の創造や自らのキャリアをデザインすることが考慮できる。	3	
	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	工学的な課題を論理的・合理的な方法で明確化できる。	3	
				公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	3	
				クライアントの要求を解決するための設計解を作り出すプロセスを理解し、設計解を創案できる。さらに、創案した設計解が要求を解決するものであるかを評価しなければならないことを理解する。	3	
				クライアントの要求を解決するための設計解を作り出すプロセスを理解し、設計解を創案できる。さらに、創案した設計解が要求を解決するものであるかを評価しデザインすることができる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	40	40
専門的能力	0	0	0	0	0	20	20
分野横断的能力	0	0	0	0	0	40	40

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	環境技術	
科目基礎情報							
科目番号	0082		科目区分		専門 / 必修		
授業形態			単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	環境建設工学専攻		対象学年		専2		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	各教員による教材・資料						
担当教員	深見 哲男,小村 良太郎,高野 典礼						
到達目標							
1. 環境のモニタリング技術・環境に関わる情報技術の現状を認識し、利用や検討ができる。 2. 環境について現状を認識し、その価値を評価して検討できる。 3. 電磁環境について現状を認識し、検討できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
到達目標1	環境のモニタリング技術・環境に関わる情報技術の現状を認識し、利用や検討が十分できる。		環境のモニタリング技術・環境に関わる情報技術の現状を認識し、利用や検討ができる。		環境のモニタリング技術・環境に関わる情報技術の現状を認識し、利用や検討ができない。		
到達目標2	2. 環境について現状を認識し、その価値を十分評価・検討できる。		2. 環境について現状を認識し、その価値を評価・検討できる。		2. 環境について現状を認識し、その価値を評価・検討できない。		
到達目標3	3. 電磁環境について現状を十分認識・検討できる。		3. 電磁環境について現状を認識・検討できる。		3. 電磁環境について現状を認識・検討できない。		
学科の到達目標項目との関係							
創造工学プログラム C1							
教育方法等							
概要	環境のための技術について、その社会性に配慮しつつ検討できるようになることを目標とする。ここでは、電磁環境、水環境、環境モニタリングについて、環境技術を学ぶ。						
授業の進め方・方法	環境とそれに対応する技術についてオムニバス方式で概論し、科学技術や情報を利用してデザイン・創造する姿勢を学ぶ社会技術系の科目である。 【関連科目】技術者倫理						
注意点	担当教員毎に与えられる課題レポートの評価点を平均して評価する。 (欠課時数の計算は、原則としてオムニバス各教員に対して別々に適用される) 成績の評価基準として60点以上を合格とする。 課題レポートの書き方: レポートは、授業以外の学修時間が有効に使われているかを評価するものでもあり、基本的に以下の点に注意して作成すること。 ①授業の内容が記載されていること(基礎知識の定着)、②授業の内容から課題に沿って独自の視点で展開・論述されたものであること(理解)、③展開・論述されたことに対して考察があること、④独自の主張が盛り込まれていること、⑤参考文献は必ず記載すること レポート評価には、以下の点も考慮される。 ①提出期限の厳守、②冗長でないこと、③論述の仕方(起承転結を含む)、④参考文献の引用の仕方						
テスト							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	(小村)環境について考える		環境モニタリング技術・環境に関わる情報技術の現状を認識し、利用や検討ができる。		
		2週	(小村)環境をモニタリングする技術(1)		環境のモニタリング技術・環境に関わる情報技術の現状を認識し、利用や検討ができる。		
		3週	(小村)環境をモニタリングする技術(2)		環境のモニタリング技術・環境に関わる情報技術の現状を認識し、利用や検討ができる。		
		4週	(小村)環境モニタリング技術に関する演習(1)		環境のモニタリング技術・環境に関わる情報技術の現状を認識し、利用や検討ができる。		
		5週	(小村)環境モニタリング技術に関する演習(2)		環境のモニタリング技術・環境に関わる情報技術の現状を認識し、利用や検討ができる。		
		6週	(高野)環境の価値を評価する		環境について現状を認識し、その価値を評価して検討できる。		
		7週	(高野)代替法に関する演習(1)		環境について現状を認識し、その価値を評価して検討できる。		
		8週	(高野)代替法に関する演習(2)		環境について現状を認識し、その価値を評価して検討できる。		
	2ndQ	9週	(高野)代替法に関する演習(3)		環境について現状を認識し、その価値を評価して検討できる。		
		10週	(高野)代替法に関する演習(4)		環境について現状を認識し、その価値を評価して検討できる。		
		11週	(深見)光からの電磁環境[デモ実験1]		電磁環境について現状を認識し、検討できる。		
		12週	(深見)電磁環境をみる技術[デモ実験2]		電磁環境について現状を認識し、検討できる。		
		13週	(深見)EMCと電気用品安全法		電磁環境について現状を認識し、検討できる。		
		14週	(深見)電磁環境の対策技術		電磁環境について現状を認識し、検討できる。		
		15週	(深見)自然の電磁環境と対策		電磁環境について現状を認識し、検討できる。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	100	0	100

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	離散数学	
科目基礎情報							
科目番号	0084			科目区分	専門 / 選択		
授業形態				単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境建設工学専攻			対象学年	専2		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	教科書特に指定しない。／教材等必要に応じてプリントなどを配布する。／参考書： 小林雅人「あみだくじの数学」共立出版, Norman L. Biggs「Discrete Mathematics REVISED EDITION」OXFORD						
担当教員	富山 正人						
到達目標							
1.あみだくじの一行表示を理解できる。 2.ワードの変形を理解できる。 3.集合と演算を理解できる。 4.群を理解できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
到達評価項目 1	あみだくじの一行表示を理解できる。		基本的なあみだくじの一行表示を理解できる。		あみだくじの一行表示を理解できない。		
到達評価項目 2	.ワードの変形を理解できる。		基本的な.ワードの変形を理解できる。		.ワードの変形を理解できない。		
到達評価項目 3	.集合と演算を理解できる。		基本的な.集合と演算を理解できる。		.集合と演算を理解できない。		
到達評価項目 4	.群を理解できる。		基本的な.群を理解できる。		.群を理解できない。		
学科の到達目標項目との関係							
創造工学プログラム A1 創造工学プログラム D2							
教育方法等							
概要	【授業の目標】 この授業では、あみだくじを数を並べかえるものと見ることにより、対称群について学ぶ。また、離散数学に基づいた理論的解析能力を身につけることによって、課題の解決に最後まで取り組み、自分の考えを正しく表現できる能力を学ぶ。以上を通じて、学士の学位を習得できる情報工学の知識と能力を身につける。 【キーワード】 線形変換、表現行列、固有値、固有ベクトル、行列の対角化						
授業の進め方・方法	【事前事後学習など】 到達目標の達成度を確認するため、適宜、課題や小テストを行うので、授業外学修時間に復習しておくこと。						
注意点	【その他の履修上の注意事項や学習上の助言】 授業中の学習に真剣に取り組むことと、授業外学修時間の予習・復習が非常に大切である。 定期試験時には十分に勉強し受験すること。 授業中は講義に集中し、他の学生に迷惑をかけないようにすること。 【評価方法・評価基準】 成績の評価基準として60点以上を合格とする。前期末試験を実施する。 成績評価方法については、以下の通りである。 定期試験（70％）、課題、小試験、受講態度や学習への取り組み方の総合的評価（30％） ＊講義に集中しなかった場合や他の学生に迷惑を掛けた場合に減点する。定期試験、小テストや課題などで不正行為があれば大きく減点する。						
テスト							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	あみだくじ		1.あみだくじの一行表示を理解できる。		
		2週	一行表示		1.あみだくじの一行表示を理解できる。		
		3週	ワード		1.あみだくじの一行表示を理解できる。		
		4週	コクセター関係式		1.あみだくじの一行表示を理解できる。		
		5週	ワードの変形		2.ワードの変形を理解できる。		
		6週	ワード表示		2.ワードの変形を理解できる。		
		7週	集合と演算		3.集合と演算を理解できる。		
		8週	集合と演算		3.集合と演算を理解できる。		
	2ndQ	9週	群		4.群を理解できる。		
		10週	対称群		4.群を理解できる。		
		11週	コクセター生成元		4.群を理解できる。		
		12週	コクセター関係式		4.群を理解できる。		
		13週	互換		4.群を理解できる。		
		14週	長さ		4.群を理解できる。		
		15週	前期復習				
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100

基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
專門的能力	70	0	0	0	0	30	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	特別研究ⅠⅡ
科目基礎情報						
科目番号	0086		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	学修単位: 8		
開設学科	環境建設工学専攻		対象学年	専2		
開設期	通年		週時間数	4		
教科書/教材						
担当教員	金寺 登,指導 教員					
到達目標						
1. 自主的・継続的に学習できる。 2. 計画的に研究を進め、まとめることができる。 3. 研究テーマの背景、目的が説明できる。 4. 関連する文献を調査できる。 5. 他者および自己に対する批判的・合理的な思考ができる。 6. 実験方法を検討し、実験装置や計算プログラムが組める。 7. 実験結果を分析し、現象を説明できる。 8. 研究成果を論文としてまとめることができる。 9. 研究成果を簡潔にまとめ、口頭発表できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標 項目1, 2, 5	自主的・継続的に学習し、計画的に研究を進め、批判的・合理的な思考ができる。		助言を得ながら、自主的・継続的に学習し、計画的に研究を進め、批判的・合理的な思考ができる。		自主的・継続的に学習し、計画的に研究を進め、批判的・合理的な思考ができない。	
到達目標 項目4, 6, 8	研究を実施し、研究成果を論文としてまとめることができる。		助言を得ながら、研究を実施し、研究成果を論文としてまとめることができる。		研究を実施し、研究成果を論文としてまとめることができない。	
到達目標 項目3, 7, 9	研究成果を簡潔にまとめ、口頭発表でき質問にも適切に答えることができる。		研究成果を簡潔にまとめ、口頭発表できる。		研究成果を簡潔にまとめ、口頭発表できない。	
学科の到達目標項目との関係						
創造工学プログラム E1 創造工学プログラム E2						
教育方法等						
概要	「機械工学」「電気電子工学」「情報工学」など基盤となる各専門の知識や技術を背景に、本科から専攻科にわたる学修を総括して、答えのない問題に対して主体的に取り組んでいく。 電子機械工学専攻に関する総合的な創造的研究開発能力を育成するため、指導教員のもとで、文献調査、理論解析、実験、ディスカッションなどの能動的実践を行う。成果は修了論文として提出され、校内の発表会等で審議される。このような体験を通じ、技術者として要求される計画性と発表能力を養う。					
授業の進め方・方法	【事前事後学習など】提出するレポートは定められたフォーマットに従って作成する。 【関連科目】特別研究Ⅰ					
注意点	特別研究Ⅱは、学位取得の際に必要な「学修総まとめ科目」に相当する。 習得した知識に加え、研究遂行に必要な学力を備えるよう努力する。 時間割上の特別研究の時間に左右されることなく、実際に特別研究を行った時間が研究時間となる。 各期ごとの終了毎に研究時間が報告されるので、指導教員とのコンタクト時間毎に研究時間を報告すること。 【評価方法・評価基準】最終的な発表（20％）と修了論文（学修の過程を含む）（80％）を定められた評価項目に従い評価・集計し、60点以上を合格とする。					
テスト						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	特別研究（ガイダンス）			
		2週	特別研究（研究計画の作成）			
		3週	特別研究			
		4週	特別研究			
		5週	特別研究			
		6週	特別研究			
		7週	特別研究			
		8週	特別研究			
	2ndQ	9週	特別研究			
		10週	特別研究			
		11週	特別研究			
		12週	特別研究			
		13週	特別研究			
		14週	特別研究			
		15週	特別研究			
		16週				
後期	3rdQ	1週	特別研究			
		2週	特別研究			
		3週	特別研究			
		4週	特別研究			
		5週	特別研究			
		6週	特別研究			

		7週	特別研究	
		8週	特別研究（発表会資料と概要の作成）	
	4thQ	9週	特別研究（審査発表会）	
		10週	特別研究	
		11週	特別研究	
		12週	特別研究（修了論文下書提出）	
		13週	特別研究（修了論文下書添削）	
		14週	特別研究（修了論文と概要提出）	
		15週	研究活動報告書提出	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	20	0	0	80	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	20	0	0	80	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	創造工学演習ⅠⅠ	
科目基礎情報							
科目番号	0087			科目区分	専門 / 必修		
授業形態				単位の種別と単位数	学修単位: 4		
開設学科	環境建設工学専攻			対象学年	専2		
開設期	後期			週時間数	4		
教科書/教材	教材等： 関連のプリント等を配布する。 , 参考書： 図書館に多数の関連書籍がある。						
担当教員	新保 泰輝, 恩村 定幸						
到達目標							
1.与えられた課題を理解して、これまでに学んだ複数の分野の知識を統合し、具体的な複数の計画を立て、実行できる。 2.経済性・安全性・環境などに関する制約条件や自然・社会への影響を的確に考察できる。 3.複雑な問題に対して既存の知識や原理を応用し、新しい技術やものを創造する力を身につけられる。 4.データを正確に解析し、工学的に考察できる。 5.レポートに関しては、論旨を理解し、理路整然と結論を出せる能力を身につけられる。 6.プレゼンテーションに関しては、成果を効果的にまとめて発表する能力を身につけられる。 7.コミュニケーションやチームワークなどグループで作業するための力を身につけられる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標項目1	与えられた課題を理解して、これまでに学んだ複数の分野の知識を統合し、具体的な複数の計画を立て、実行できる。			与えられた課題を理解して、これまでに学んだ知識を統合し、具体的な計画を立て、実行できる。		与えられた課題を理解して、これまでに学んだ知識を統合し、具体的な計画を立て、実行できない。	
到達目標項目2	経済性・安全性・環境などに関する制約条件や自然・社会への影響を的確に考察できる。			経済性・安全性・環境などに関する制約条件や自然・社会への影響を考察できる。		経済性・安全性・環境などに関する制約条件や自然・社会への影響を考察できない。	
到達目標項目3	複雑な問題に対して既存の知識や原理を応用し、新しい技術やものを創造する力を身につけられる。			一つの問題に対して既存の知識や原理を応用し、新しい技術やものを創造する力を身につけられる。		一つの問題に対して既存の知識や原理を応用し、新しい技術やものを創造する力を身につけられなる。	
到達目標項目4	データを正確に解析し、工学的に考察できる。			データを解析し、考察できる。		データを解析し、考察できない。	
到達目標項目5	レポートに関しては、論旨を理解し、理路整然と結論を出せる能力を身につけられる。			レポートに関しては、論旨を理解し、結論を出せる能力を身につけられる。		レポートに関しては、論旨を理解し、結論を出せる能力を身につけられない。	
到達目標項目6	プレゼンテーションに関しては、成果を効果的にまとめて発表する能力を身につけられる。			プレゼンテーションに関しては、成果をまとめて発表する能力を身につけられる。		プレゼンテーションに関しては、成果をまとめて発表する能力を身につけられない。	
到達目標項目7	コミュニケーションやチームワークなどグループで作業するための力を身につけられる。			個人で作業するための力を身につけられる。		個人で作業するための力を身につけられない。	
学科の到達目標項目との関係							
創造工学プログラム E3							
教育方法等							
概要	P B Lを通じて、工学の基礎的な知識・技術を統合し、創造性を発揮して課題を探索し、組み立て、解決する能力を養うことを目的とする。						
授業の進め方・方法	「事前事後学習」理解を深めるため、毎回授業外学修時間に相当する課題を課す。各学期末にレポートを提出する。「関連科目」本科・専攻科すべての科目						
注意点	環境建設工学演習については、出身学科が異なる学生で構成された融合チームを結成し、設定されたチームプロジェクト型のテーマに対して、計画を立案とその実施を進めていきます。テーマについては、創造性を養うために、ガイダンスで提示するキーワードを参考にして、協議して決定します。 「評価方法」 レポート（70%）とプレゼンテーション（30%）により達成度を評価する。 成績の評価基準として60点以上を合格とする。						
テスト							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス（課題・学習方法の説明）				
		2週	環境建設工学演習			到達目標 1, 2, 3, 4, 7	
		3週	環境建設工学演習			到達目標 1, 2, 3, 4, 7	
		4週	環境建設工学演習			到達目標 1, 2, 3, 4, 7	
		5週	環境建設工学演習			到達目標 1, 2, 3, 4, 7	
		6週	環境建設工学演習			到達目標 1, 2, 3, 4, 7	
		7週	環境建設工学演習			到達目標 1, 2, 3, 4, 7	
		8週	環境建設工学演習			到達目標 1, 2, 3, 4, 7	
	4thQ	9週	環境建設工学演習			到達目標 1, 2, 3, 4, 7	
		10週	環境建設工学演習			到達目標 1, 2, 3, 4, 7	
		11週	環境建設工学演習			到達目標 1, 2, 3, 4, 7	
		12週	環境建設工学演習			到達目標 1, 2, 3, 4, 7	
		13週	レポート提出			到達目標 5, 7	
		14週	レポート修正			到達目標 5, 7	
		15週	プレゼンテーション			到達目標 6, 7	
		16週					

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	0	30	0	0	0	70	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	30	0	0	0	70	100

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	応用コンクリート工学	
科目基礎情報							
科目番号		0088		科目区分		専門 / 選択	
授業形態				単位の種別と単位数		学修単位: 2	
開設学科		環境建設工学専攻		対象学年		専2	
開設期		前期		週時間数		2	
教科書/教材		教材：適宜，プリントを配布する。					
担当教員		福留 和人,高井 俊和,富田 充宏					
到達目標							
コンクリート構造物の主な劣化機構を理解し，説明できる。 コンクリート構造物の維持管理法を理解し，説明できる。 劣化したコンクリート構造物の補修・補強方法を理解し，説明できる。 鋼部材の劣化機構が説明できる。 鋼部材の維持管理手法が説明できる。 鋼部材の補修・補強方法が説明できる。 鉄筋コンクリートばりの破壊解析について説明でき，計算できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標項目1		コンクリート構造物の主な劣化機構，維持管理法，補修・補強方法を理解し，説明できる。		コンクリート構造物の主な劣化機構，維持管理法，補修・補強方法の基本を理解し，基本を説明できる。		コンクリート構造物の主な劣化機構，維持管理法，補修・補強方法を理解せず，説明できない。	
到達目標項目2		鋼部材の劣化機構，維持管理手法，補修・補強方法が説明できる。		鋼部材の劣化機構，維持管理手法，補修・補強方法の基本が説明できる。		鋼部材の劣化機構，維持管理手法，補修・補強方法が説明できない。	
到達目標項目3		鉄筋コンクリートばりの破壊解析について説明でき，計算できる。		鉄筋コンクリートばりの破壊解析について基本を説明でき，基本の計算できる。		鉄筋コンクリートばりの破壊解析について説明できず，計算できない。	
学科の到達目標項目との関係							
創造工学プログラム B2							
教育方法等							
概要		コンクリートと鋼材の複合化によって，所定の性能が発揮されるRC，PC，S造等の構造物の維持・管理法について概説する。鋼構造物の劣化に対しては，その鋼部材の補修・補強方法を事例を取り上げ概説する。また，鉄筋コンクリートばりの破壊解析を行い，はりの終局耐力や破壊形態について学習する。以上より，それぞれの劣化メカニズムを踏まえた点検診断方法や合理的な維持管理法を理解し，学際的課題解決に関する技術力向上と問題解決力の必要性を認識する。					
授業の進め方・方法		【事前事後の学習など】 理解を深めるため，毎回授業外学修時間に相当する課題を課す。 【関連科目】 C科：コンクリート構造学，C科：鋼構造学，A科：建築材料学，A科：鉄筋コンクリート構造，AC専攻：建設材料学					
注意点		1. コンクリートおよび鋼材に関する材料学および構造学上の基本的事項について，復習しておく必要がある。 2. 近年におけるインフラ整備に関連した報道や社会状況等に対して，常に注意および関心を持っていて欲しい。 【先修条件】 コンクリート工学に関する基本的事項（材料、施工など）について理解していること。コンクリート工学（2C）、コンクリート構造学（4C），鋼構造学（4C），建築材料Ⅰ（3A） 【評価方法・評価基準】 レポート（100%） 評価基準として，60点以上を合格とする。					
テスト							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	コンクリート構造物の劣化と維持管理の基本		コンクリート構造物の主な劣化機構を理解し，説明できる。		
		2週	劣化予測（劣化機構の分類）		コンクリート構造物の維持管理法を理解し，説明できる。		
		3週	劣化予測（劣化機構のモデル化）		コンクリート構造物の維持管理法を理解し，説明できる。		
		4週	劣化度の点検・評価と判定法		コンクリート構造物の維持管理法を理解し，説明できる。		
		5週	コンクリート構造物の補修・補修技術（その1）		劣化したコンクリート構造物の補修・補強方法を理解し，説明できる。		
		6週	コンクリート構造物の補修・補修技術（その2）		劣化したコンクリート構造物の補修・補強方法を理解し，説明できる。		
		7週	鋼部材の維持管理に関する基礎知識		鋼部材の劣化機構が説明できる。		
		8週	鋼部材の防食技術		鋼部材の維持管理手法が説明できる。		
	2ndQ	9週	鋼部材の疲労対策		鋼部材の維持管理手法が説明できる。		
		10週	鋼部材の補修・補強の事例		鋼部材の補修・補強方法が説明できる。		
		11週	鉄筋コンクリートばりの破壊解析の説明		鉄筋コンクリートばりの破壊解析について説明でき，計算できる。		
		12週	鉄筋コンクリートばりの解析データ作成		鉄筋コンクリートばりの破壊解析について説明でき，計算できる。		
		13週	鉄筋コンクリートばりの破壊解析の実行と考察		鉄筋コンクリートばりの破壊解析について説明でき，計算できる。		
		14週	鉄筋コンクリートばりの破壊解析の結果の整理		鉄筋コンクリートばりの破壊解析について説明でき，計算できる。		

		15週	復習				
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	100	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	交通基盤工学	
科目基礎情報							
科目番号	0089			科目区分	専門 / 選択		
授業形態				単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境建設工学専攻			対象学年	専2		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員	西澤 辰男						
到達目標							
到達目標 1 : 舗装に関する構造, 計画, 性能評価などの基礎知識を習得する。 到達目標 2 : 舗装の設計や診断に関する専門知識を習得する。 到達目標 3 : これらの知識に基づいて, 舗装に関わる問題を発見し, 解決できる能力を養う。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1: 到達目標 1	舗装に関する構造, 計画, 性能評価などの基礎知識を理解し, 説明できる。			舗装に関する構造, 計画, 性能評価などの基礎知識を理解している。		舗装に関する構造, 計画, 性能評価などの基礎知識を理解していない。	
評価項目2: 到達目標 2	舗装の設計や診断に関する専門知識を理解し, 説明できる			舗装の設計や診断に関する専門知識を理解している		舗装の設計や診断に関する専門知識を理解していない。	
評価項目3: 到達目標 3	舗装に関わる問題を発見し, 解決できる。			舗装に関わる問題を発見しできる。		舗装に関わる問題を発見したり, 解決できない。	
学科の到達目標項目との関係							
創造工学プログラム B1専門(土木工学) 創造工学プログラム F1専門 (建築学)							
教育方法等							
概要	交通を支える基盤施設の 1 つである舗装の機能・力学・設計・管理について学習する。舗装は交通車両を安全かつ円滑に走行させるために, 道路, 空港, 港湾などに建設される重要な交通基盤施設である。舗装に関する構造, 計画, 性能評価などの学際的な基礎知識および専門的知識を修得する。さらにこれらの知識に基づいて, 舗装に関わる問題を発見し, 解決できる能力を養う。						
授業の進め方・方法	学年末試験を実施する。 試験(60%), 課題演習(40%) 成績の評価基準として60点以上を合格とする。						
注意点	毎回, コンピュータを用いた課題演習(簡単なソフトを作成する)を行うので, 必ず自分で作成し実行して課題を解答すること。 試験では, 授業中に作成したソフトウェアを使用する。 履修の先修条件: 表計算ソフトの使用方法を理解していること。力学の基本的な事項について理解していること。 コンピュータリテラシー(1C,1A) 構造力学Ⅰ(2C,2A), Ⅱ(3C, 3A), Ⅲ(4C, 4A)						
テスト							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	舗装の種類と役割		到達目標 1		
		2週	舗装のライフサイクル(一生)		到達目標 1		
		3週	舗装の設計 (A A S H T O設計法)		到達目標 2		
		4週	舗装の設計 (CBR設計法)		到達目標 2		
		5週	舗装の設計 (疲労設計法)		到達目標 2		
		6週	舗装の設計演習		到達目標 3		
		7週	舗装の構造解析法		到達目標 2		
		8週	舗装の構造解析演習		到達目標 2		
	4thQ	9週	舗装の施工法と材料		到達目標 2		
		10週	舗装の材料の力学		到達目標 2		
		11週	舗装の機能とその評価法		到達目標 2		
		12週	舗装の構造診断法 (FWD試験法)		到達目標 2		
		13週	舗装維持管理システム		到達目標 2		
		14週	総合演習		到達目標 3		
		15週	後期まとめ		到達目標 1 - 3		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	200	0	0	0	0	0	200
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	100	0	0	0	0	0	100

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	環境工学	
科目基礎情報							
科目番号	0091			科目区分	専門 / 選択		
授業形態				単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境建設工学専攻			対象学年	専2		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員	高野 典礼						
到達目標							
1.環境の社会的位置づけを理解し説明できる。 2.生態系保全の重要性を理解し説明できる。 3.水質調査の必要性を理解し説明できる。 4.水処理技術の必要性を理解し説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標1	環境の社会的位置づけを理解し説明できる。			環境の社会的位置づけを理解している。		環境の社会的位置づけを理解し説明できない。	
到達目標2	生態系保全の重要性を理解し説明できる。			生態系保全の重要性を理解している。		生態系保全の重要性を理解し説明できない。	
到達目標3	水質調査の必要性を理解し説明できる。			水質調査の必要性を理解している。		水質調査の必要性を理解し説明できない。	
到達目標4	水処理技術の必要性を理解し説明できる。			水処理技術の必要性を理解している。		水処理技術の必要性を理解し説明できない。	
学科の到達目標項目との関係							
創造工学プログラム A1 創造工学プログラム B1専門(土木工学) 創造工学プログラム F1専門 (建築学)							
教育方法等							
概要	本講義は、環境について社会から求められる位置づけを理解し、生態系保全の実践を通して、環境保全を学ぶものである。生態系が人の暮らしに与する多大な恩恵を守っていくために、その一歩としてものづくりを通して生態系へ貢献する。						
授業の進め方・方法	【事前事後学習など】 理解を深めるため、授業外学修時間は各種メディアに目を凝らすこと。 【関連科目】 循環型社会システム工学, 環境システム工学, 環境保全工学						
注意点	【評価方法・評価基準】 レポート (100%) 成績の評価基準として60点以上を合格とする。 【その他の履修上の注意事項や学習上の助言】 生態系への配慮を水質調査や水処理技術を通じて学びます。 先修条件：化学の基礎、化学反応を理解していること。 化学Ⅰ (1A,1C),化学Ⅱ (2A,2C)						
テスト							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	概説		環境の社会的位置づけを理解し説明できる。		
		2週	水質調査		水質調査の必要性を理解し説明できる。		
		3週	水質調査		水質調査の必要性を理解し説明できる。		
		4週	水質調査		水質調査の必要性を理解し説明できる。		
		5週	水質調査		水質調査の必要性を理解し説明できる。		
		6週	水質調査		水質調査の必要性を理解し説明できる。		
		7週	レポート作成(1)		生態系保全の重要性を理解し説明できる。		
		8週	水処理実験		水処理技術の必要性を理解し説明できる。		
	2ndQ	9週	水処理実験		水処理技術の必要性を理解し説明できる。		
		10週	水処理実験		水処理技術の必要性を理解し説明できる。		
		11週	水処理実験		水処理技術の必要性を理解し説明できる。		
		12週	水処理実験		水処理技術の必要性を理解し説明できる。		
		13週	水処理実験		水処理技術の必要性を理解し説明できる。		
		14週	レポート作成(2)		生態系保全の重要性を理解し説明できる。		
		15週	復習		環境の社会的位置づけを理解し説明できる。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	100	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	建築構造計算学	
科目基礎情報							
科目番号	0093		科目区分	専門 / 選択			
授業形態			単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	環境建設工学専攻		対象学年	専2			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材							
担当教員	北田 幸彦						
到達目標							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
創造工学プログラム A1専門(建築学) 創造工学プログラム B1専門(建築学) 創造工学プログラム F1専門(土木工学)							
教育方法等							
概要							
授業の進め方・方法							
注意点							
テスト							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	4thQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	環境景観論
科目基礎情報						
科目番号	0094		科目区分	専門 / 選択		
授業形態			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境建設工学専攻		対象学年	専2		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	【教材】単元ごとに関連プリントを配布します。／【参考書】中村良夫：「風景学入門」（中公新書），吉村元男：「風景のコスモロジー」（鹿島出版会）					
担当教員	熊澤 栄二					
到達目標						
1. 各時代の景観的な特性の変遷を生活環境の歴史的な展開として理解し，説明できる。 2. 文化現象を形成する重要な要素として景観現象を理解し，説明できる。 3. 人間が形成する諸場所とその構造が景観現象の基盤となってくることを理解し，説明できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標項目 1	各時代の景観的な特性の変遷を生活環境の歴史的な展開として因果性を踏まえて説明できる。		生活環境の歴史的な展開として全般的に説明できる。		生活環境の歴史的な展開として説明できない。	
到達目標項目 2	文化現象を形成する重要な要素として景観現象を自分の考えを踏まえて説明できる。		文化現象を形成する重要な要素として景観現象を全般的に説明できる。		文化現象を形成する重要な要素として景観現象を説明できない。	
到達目標項目 3	人間が形成する諸場所とその構造が景観現象の基盤となってくることを自分の考えを踏まえて説明できる。		人間が形成する諸場所とその構造が景観現象の基盤となってくることを全般的に説明できる。		人間が形成する諸場所とその構造が景観現象の基盤となってくることを説明できない。	
学科の到達目標項目との関係						
創造工学プログラム B1専門(建築学) 創造工学プログラム F1専門(土木工学)						
教育方法等						
概要	人間の生活環境の眺めとしての景観について，自然環境に対する人間の関わりという論点から，考察する。風景に関連深い絵画・造形作品，詩歌，思想などの資料をもとに各時代固有の景観視を解説することで，生きた環境形成の基礎を学習する。					
授業の進め方・方法	【事前事後学習など】長期休暇時にレポートを課すことがあります。 【関連科目】住生活文化論，人間・環境デザイン論					
注意点	授業で配布される資料については事前に熟読し，内容を把握しておくことが重要です。 講義では，授業内容を掘り下げる質問等を適宜行いますので，積極的に参加してください。 【評価方法・評価基準】期末試験を実施する。 試験成績（70％），レポート成績（20％），授業への積極的な参加・小課題の提出状況など（10％） 成績の評価基準として60点以上を合格とする。					
テスト						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス			
		2週	古代の景観視-神道と地域 1		古代の景観的な特性の変遷を生活環境の歴史的な展開として理解し，説明できる。	
		3週	古代の景観視-神道と地域 2		古代の景観的な特性の変遷を生活環境の歴史的な展開として理解し，説明できる。	
		4週	古代の景観視-神道と地域 3		各時代の景観的な特性の変遷を生活環境の歴史的な展開として理解し，説明できる。	
		5週	古代から中世の景観視-浄土教と庭園 1		古代から中世の景観的な特性の変遷を生活環境の歴史的な展開として理解し，説明できる。	
		6週	古代から中世の景観視-浄土教と庭園 2		古代から中世の景観的な特性の変遷を生活環境の歴史的な展開として理解し，説明できる。	
		7週	諸場所の構造		文化現象を形成する重要な要素として景観現象を理解し，説明できる。人間が形成する諸場所とその構造が景観現象の基盤となってくることを理解し，説明できる。	
		8週	中世の景観視-見立ての手法 1		中世の景観的な特性の変遷を生活環境の歴史的な展開として理解し，説明できる。	
	2ndQ	9週	中世の景観視-見立ての手法 2		中世の景観的な特性の変遷を生活環境の歴史的な展開として理解し，説明できる。	
		10週	場所的言語		文化現象を形成する重要な要素として景観現象を理解し，説明できる。人間が形成する諸場所とその構造が景観現象の基盤となってくることを理解し，説明できる。	
		11週	中世から近世の景観視-枯山水の庭園 1		中世から近世の景観的な特性の変遷を生活環境の歴史的な展開として理解し，説明できる。	
		12週	中世から近世の景観視-枯山水の庭園 2		中世から近世の景観的な特性の変遷を生活環境の歴史的な展開として理解し，説明できる。	
		13週	中世から近世の景観視-枯山水の庭園 1		中世から近世の景観的な特性の変遷を生活環境の歴史的な展開として理解し，説明できる。	
		14週	後期復習		文化現象を形成する重要な要素として景観現象を理解し，説明できる。人間が形成する諸場所とその構造が景観現象の基盤となってくることを理解し，説明できる。	

		15週	後期復習, レポート返却, 授業アンケート等			各時代の景観視について結盟できる。		
		16週						
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	70	0	0	0	20	10	100	
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0	
専門的能力	70	0	0	0	20	10	100	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	工業デザイン	
科目基礎情報							
科目番号	0183		科目区分	専門 / 選択			
授業形態			単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	環境建設工学専攻		対象学年	専2			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材							
担当教員	山田 和紀						
到達目標							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
創造工学プログラム C1 創造工学プログラム F1							
教育方法等							
概要							
授業の進め方・方法							
注意点							
テスト							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	4thQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	量子力学	
科目基礎情報							
科目番号	0185			科目区分	専門 / 選択		
授業形態				単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境建設工学専攻			対象学年	専2		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員	古崎 広志						
到達目標							
1. 古典論と量子論の相違を理解することができる。 2. スピンの性質を理解し説明することができる。 3. 量子論における「要請」を理解することができる。 4. ブラ・ケットを用いた計算をすることができる。 5. 不確定性原理を理解し説明することができる。 6. 正準量子化の方法を理解することができる。 7. シュレディンガー表示を理解し、ベクトルや演算子を表現できる。 8. 簡単なシュレディンガー方程式を解くことができる。 9. 波束を理解することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
創造工学プログラム B2							
教育方法等							
概要	科学技術を利用して創造することに喜びを知り、たゆまず努力するには基礎的な工学の知識が必要である。本授業では、ミクロな世界を記述するのに必要な量子力学と呼ばれる理論体系について学ぶ。量子力学は、量子力学とそれ以外という形で物理の諸分野を分けられるほど、基本的な考え方が大きく異なる。通常、物理量は測定する・しないに関わらず各時刻で定まった値を持つと考えているが、量子力学ではこれを否定するところから始まる。この授業では、量子力学特有の基本仮定と枠組みを中心に学習していき、応用としてスピンと1次元空間を運動する粒子を取り上げる。これらの学習を通して、物理学によって理論的に問題を解析し、解決までできる力を養成する。						
授業の進め方・方法	前半は線形代数の学習と平行してスピンを題材に量子力学の要請を一通り学ぶ。後半は正準量子化に基づいて1次元空間を運動する粒子の量子力学について学ぶ。線形代数の学習は、主に事前学習としてワークシートに取り組んでもらい、授業で解説する形で進める。その他は、授業で解説してから事後学習で授業内容の理解を深めてもらう。 履修の先修条件：行列の固有値・固有ベクトルを求められること。線形代数（専攻科1年共通） 授業時間外の学修として、課題への取り組みと、次に学修する範囲の予習が必要。						
注意点	毎回授業外学修時間に相当する分量の予習・復習課題を与えるので必ず提出すること。 前期中間試験と前期末試験を実施する。 前期中間試験（45%）、前期末試験（90%）、課題への取り組み（10%） 課題への取り組みは、提出状況により評価する。 成績の評価基準として60点以上を合格とする。						
テスト							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	古典物理の破綻から量子論へ		古典論と量子論の相違を理解することができる		
		2週	ヒルベルト空間		ブラ・ケットを用いた計算をすることができる		
		3週	量子論の要請（離散固有値）		量子論における「要請」を理解することができる		
		4週	期待値とゆらぎ、量子論の要請（連続固有値）		量子論における「要請」を理解し、ブラ・ケットを用いた計算をすることができる。		
		5週	不確定性原理		不確定性原理を理解し説明することができる		
		6週	時間発展		時間発展に関する量子論における「要請」を理解することができる		
		7週	解析力学		正準量子化の方法を理解することができる		
		8週	中間試験		1週から6週までに学習した内容の到達度を確認する		
	2ndQ	9週	正準量子化		正準量子化の方法を理解し、シュレディンガー表示でベクトルや演算子を表現することができる		
		10週	自由粒子		簡単なシュレディンガー方程式を解くことができる		
		11週	井戸型ポテンシャル（その1）		簡単なシュレディンガー方程式を解くことができる		
		12週	井戸型ポテンシャル（その2）		簡単なシュレディンガー方程式を解くことができる		
		13週	調和振動子		ブラ・ケットを用いた計算をすることができる		
		14週	波束		波束を理解することができる。		
		15週	期末試験		7週および9週から14週に学習した内容の到達度を確認する		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90	0	0	0	0	10	100

基礎的能力	90	0	0	0	0	10	100
專門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	地盤材料工学	
科目基礎情報							
科目番号	0190			科目区分	専門 / 選択		
授業形態				単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境建設工学専攻			対象学年	専2		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	教材等： 関連のプリントを配布する。 / 参考書： J.K. Mitchell "Fundamentals of Soil Behavior"						
担当教員	重松 宏明						
到達目標							
1. 地盤の基礎的性質を理解し，説明できる。 2. 各種地盤材料の力学特性を理解し，説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標項目1	地盤の基礎的性質を理解し，説明できる。			地盤の基礎的性質を概ね理解し，基本的な説明ができる。		地盤の基礎的性質を理解しておらず，説明もできない。	
到達目標項目2	各種地盤材料の力学特性を理解し，説明できる。			各種地盤材料の力学特性を概ね理解し，基本的な説明ができる。		各種地盤材料の力学特性を理解しておらず，説明もできない。	
学科の到達目標項目との関係							
創造工学プログラム B1専門(土木工学) 創造工学プログラム F1専門 (建築学)							
教育方法等							
概要	道路，鉄道，空港，港湾，橋，トンネル，ダム，建築物などの施設や構造物は，何れも地盤に基礎をおくか，地盤に何らかの手を加えて造られる。地盤は大小様々な土粒子の集合体であるため，鋼やコンクリートなどとは異なり，複雑で多様な特性を有している。本授業は，材料としての地盤の物理的・力学的性質を整理し，これらの特性に及ぼす様々な要因を室内実験を交えて学んでいく。						
授業の進め方・方法	【事前事後学習など】 毎回授業外学修時間に相当する分量の予習・復習課題を与えるので必ず提出すること。 【関連科目】 土質力学Ⅰ，土質力学Ⅱ，地盤工学，環境都市工学実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ						
注意点	・本科の土質力学や地盤工学に関する科目を復習した上で，本講義を受講すること。 ・単に知識のみを習得するのではなく，技術者の立場に立って学ぶこと。 ・近年におけるインフラ整備，環境問題，災害情報等に対して，常に関心を持ち，かつ自分なりの考えを持っていること。 ・課題やレポートは必ず期限までに提出すること。 ・履修の先修条件：土の基本的物理量，透水，土かぶり圧，圧密，せん断，土圧，基礎の支持力を理解していること。 土質力学Ⅰ（3C），土質力学Ⅱ（4C），地盤工学（5C），土質基礎工学（5A）						
テスト							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス				
		2週	地盤の基礎的性質(1)				
		3週	地盤の基礎的性質(2)				
		4週	地盤の基礎的性質(3)				
		5週	地盤の基礎的性質(4)				
		6週	地盤の基礎的性質(5)				
		7週	演習				
		8週	各種地盤材料の力学的評価(1)				
	4thQ	9週	各種地盤材料の力学的評価(2)				
		10週	各種地盤材料の力学的評価(3)				
		11週	各種地盤材料の力学的評価(4)				
		12週	各種地盤材料の力学的評価(5)				
		13週	各種地盤材料の力学的評価(6)				
		14週	演習				
		15週	後学期の復習				
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	40	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	60	0	0	0	40	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

石川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	人間・環境デザイン論	
科目基礎情報							
科目番号	0192			科目区分	専門 / 選択		
授業形態				単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境建設工学専攻			対象学年	専2		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	人間環境学 よりよい環境のデザインへ (朝倉書店) 、The Image of the City (Kevin Lynch), Intentions in Architecture (Christian Norberg-Schuls)						
担当教員	道地 慶子						
到達目標							
人間と環境の心理的な相互作用に関する基礎理論を理解できる。 人間が環境をどのように知覚し、判断し、記憶し、評価しているかの概要を理解できる。 対人的な社会行動において環境がどのように影響するかの意味を理解できる。 風土と人間の関係を理解できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	人間と環境の心理的な相互作用に関する基礎理論を理解できる。 人間が環境をどのように知覚し、判断し、記憶し、評価しているかの概要を理解できる。			基本的な人間と環境の心理的な相互作用に関する基礎理論を理解できる。 基本的な人間が環境をどのように知覚し、判断し、記憶し、評価しているかの概要を理解できる。		人間と環境の心理的な相互作用に関する基礎理論を理解できない。 人間が環境をどのように知覚し、判断し、記憶し、評価しているかの概要を理解できない。	
評価項目2,3	対人的な社会行動において環境がどのように影響するかの意味を理解できる。			基本的な対人的な社会行動において環境がどのように影響するかの意味を理解できる。		対人的な社会行動において環境がどのように影響するかの意味を理解できない。	
評価項目4	風土と人間の関係を理解できる。			基本的な風土と人間の関係を理解できる。		風土と人間の関係を理解できない。	
学科の到達目標項目との関係							
創造工学プログラム A1専門(土木工学) 創造工学プログラム B1専門(土木工学) 創造工学プログラム F1専門 (建築学)							
教育方法等							
概要	本講義では、人間・環境を建築や都市、風景や風土との関係で問題を発見し・提起し、また、その問題を習得した技術や理論に関する知識や理論によって解析し、解決できることが目標となる。より良き人間・環境の形成へ向けてのデザインの諸問題の観点を教授する。人間・環境に関わる歴史的な緒論を紹介するとともに、そこでの基本的な行為・行動の諸相を生活環境の物的な広がり、構成空間として論究し、現代都市やまちづくりにおける人間と環境の調和あるデザインの可能性を考察する。 学習・教育目標との対応						
授業の進め方・方法	【事前事後学習など】 授業の主題の必要に応じて小課題を出題する。 【関連科目】 環境景観論、環境技術総論、建築計画学、建築史関連科目、都市計画学関連科目						
注意点	【その他の履修上の注意事項や学習上の助言】人間の基盤と環境の言葉の生きた広がりを理解するこが重要です。授業中の学習のみならず、平常時の予習・復習が大切です。 履修の先修条件：いろいろな人々と環境の関わりについての基礎を習得していること。 建築計画学基礎 (3A)、建築計画学Ⅱ (4A)、アーバン・デザイン (5AC)、地域・都市計画 (5A) 【評価方法・評価基準】レポート (80%)、平常の学習、事前事後学習における小課題の提出状況 (20%) 成績の評価基準として60点以上を合格とする。						
テスト							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	環境心理学Ⅰ 建築デザインと人間環境学		人間と環境の心理的な相互作用に関する基礎理論を理解できる。 人間が環境をどのように知覚し、判断し、記憶し、評価しているかの概要を理解できる。		
		2週	環境心理学Ⅱ 環境評価を活かした建築設計		人間と環境の心理的な相互作用に関する基礎理論を理解できる。 人間が環境をどのように知覚し、判断し、記憶し、評価しているかの概要を理解できる。		
		3週	環境と感覚Ⅰ 視・音・温熱・空気環境と建築		人間と環境の心理的な相互作用に関する基礎理論を理解できる。 人間が環境をどのように知覚し、判断し、記憶し、評価しているかの概要を理解できる。		
		4週	環境と感覚Ⅱ 複合環境と建築		人間と環境の心理的な相互作用に関する基礎理論を理解できる。 人間が環境をどのように知覚し、判断し、記憶し、評価しているかの概要を理解できる。		
		5週	環境知覚とイメージⅠ 場所の認知と記憶		人間と環境の心理的な相互作用に関する基礎理論を理解できる。 人間が環境をどのように知覚し、判断し、記憶し、評価しているかの概要を理解できる。		
		6週	環境知覚とイメージⅡ 環境の空間イメージ・空間認知		人間と環境の心理的な相互作用に関する基礎理論を理解できる。 人間が環境をどのように知覚し、判断し、記憶し、評価しているかの概要を理解できる。		
		7週	人間の行動が作る空間 姿勢と建築空間		対人的な社会行動において環境がどのように影響するかの意味を理解できる。		

		8週	人間空間生態学 I 間の心理と文化	対人的な社会行動において環境がどのように影響するかの意味を理解できる。
	2ndQ	9週	人間空間生態学 II 建築空間における領域・距離	対人的な社会行動において環境がどのように影響するかの意味を理解できる。
		10週	いろいろな人々と環境の関わり I 空間の様々な利用者と建築	対人的な社会行動において環境がどのように影響するかの意味を理解できる。
		11週	いろいろな人々と環境の関わり II 子供・高齢者・ユニバーサルデザイン	対人的な社会行動において環境がどのように影響するかの意味を理解できる。
		12週	住まう環境 住宅建築と環境	風土と人間の関係を理解できる。
		13週	学ぶ環境 学校建築と環境	人間と環境の心理的な相互作用に関する基礎理論を理解できる。 人間が環境をどのように知覚し、判断し、記憶し、評価しているかの概要を理解できる。
		14週	都市の景観 都市環境・街路空間	人間と環境の心理的な相互作用に関する基礎理論を理解できる。 人間が環境をどのように知覚し、判断し、記憶し、評価しているかの概要を理解できる。 風土と人間の関係を理解できる。
		15週	後期復習	人間と環境の心理的な相互作用に関する基礎理論を理解できる。 人間が環境をどのように知覚し、判断し、記憶し、評価しているかの概要を理解できる。 対人的な社会行動において環境がどのように影響するかの意味を理解できる。 風土と人間の関係を理解できる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	0	0	0	0	80	20	100	
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0	
専門的能力	0	0	0	0	80	20	100	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	